

現代的な課題に関する 学習機会の提供について (3年次)

「モデルとなる家庭教育学級講座」 実践事例集



茨城県水戸生涯学習センター

家族の絆 いま本当に大事なことは

近年の急激な社会情勢の変化に伴い、大人はもちろんのこと、子どもを取り巻く環境も大きく変わってきました。そのような中で、子ども達を狙った凶悪犯罪等が新聞を賑わしていることに心が痛みます。特に、児童虐待やネグレクト等家庭内での事件が年々増加傾向にあるのも事実です。厚生労働省が調査した児童相談所における児童虐待の相談件数の推移を見ると1997年に5,352件であったものが、2008年の調査では、約8倍に当たる40,639件にまで達しております。

今まさに将来を担う子ども達のためにも、家庭の教育力の向上が問われる時代となりました。

家庭教育は、そもそも子育ての中で基本的な生活習慣やものの感じ方、考え方、価値観など人格の基本となるものを身に付けさせるために、それぞれの家庭で行う教育で、家庭の豊かな人間関係を基盤として、子どもの発達段階に合わせながら、意図的、無意図的に行われるものです。家庭教育学級は、家庭において子どもを正しく理解し、健やかに成長していくことを願って、子どもに関わる様々な問題について、共通したテーマで年間を通じて、計画的・継続的に学習する場として開設していくものです。

当センターでは、「学習プログラム開発事業」として、現代的な課題に関する学習機会の提供について「モデルとなる家庭教育学級講座」のプログラム開発を進めております。この事業はもともと単年毎にテーマを変えて実施して参りましたが、家庭教育の重要性をひしひしと感じ取り3年間の研究に至りました。

今年度の学習プログラム開発は、よりよい家庭教育と生涯学習をより一層推進するため、「家族の絆の大切さ」に親が気づき、発見できる家庭教育学級をめざし、幼児期の教育に重点をおく幼稚園等に焦点を当て、さらに幼保一元化の施設に視点をあわせ、講座運営や父親の参加等に工夫を加えた、『モデルとなる家庭教育学級講座』の検証を行いました。

この冊子は、水戸市立内原保育所・内原幼稚園で行ったそのモデル講座の概要や保護者の意識調査および3年間の実践例等をそれぞれまとめたものです。

各市町村教育委員会並びに生涯学習関連施設等におかれましては、それぞれの県民の実情及び学習要求に十分対応していくために、この実践事例集を講座設定の際の参考にしていただくとともに、御意見・御感想をお寄せいただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、本学習プログラム開発事業の実施に際しまして、快くモデル園をお引き受けいただきました水戸市立内原保育所・内原幼稚園 森下紀子園長先生、そして各回のモデル講座の講師の方々をはじめ、計画立案及び御助言から実施後の分析・研究と御協力をいただきました常磐大学コミュニティ振興学部教授の坂本 登先生並びにプログラム開発委員の皆様から感謝申し上げます。

平成21年3月

茨城県水戸生涯学習センター管理事務所長 池田 馨

研究を振り返って

学習プログラム開発委員会委員長 坂本 登

変化の早い時代にあつて、行政が、同一テーマの調査研究事業を長期にわたって委嘱する例は、きわめて稀なことです。少子高齢化の加速的進行を危惧し、次代を担う子どもの成長に大きな期待を寄せる県教育委員会が、子育て・家庭教育の振興を行政課題に据え、「現代的な課題に関する学習機会の提供」に係る「モデルとなる家庭教育学級講座」のプログラムの開発研究を、3カ年間にわたって委嘱されました見識に敬意を表します。

本研究は、まず、県内の市町村教育委員会に対する「家庭教育学級実施状況調査」と、小学生を持つ保護者に対する「子育て・しつけに関するアンケート調査」からスタートしました。前者の調査結果からは、市町村における家庭教育学級の実施率は高い（95%）ものの、学校・園やPTAへの丸投げによる委託実施、委託された学校・園やPTAが参加者の確保を優先させて参観日等に開催、学習回数・時間が5回・10時間未満、学習内容が焦点化されておらず系統性にも欠ける、などの現状が把握されました。一方、保護者対象の調査からは、小学生をもつ保護者は、子育て・しつけに対し高い関心をもっているものの、子育て・しつけに関する学習機会や相談機会に恵まれていない（知らない）と感じていることが明らかにされました。

当学習プログラム開発委員会には、こうした現状に内包される問題を摘出し、問題を解決するためのプログラムを開発する責務が課せられました。問題点としてはたとえば、①参加対象を明確化・固定化した学習の継続、②プログラム立案への学習者の参画推進、③焦点化され系統性のある内容のプログラムの作成、④学習課題の共有と学習活動への主体的参画、⑤学習情報の提供などが喫緊の課題として挙げられました。

こうした問題解決に向け、当委員会は、実験的プログラムを作成し、実際に家庭教育学級を実施して、プログラム開発の方途などについて検証することとしました。ただし、研究は当初から3年間とされていたのではなく、毎年度ごとに、新規に委嘱される方法が採られました。逐年委嘱される研究のための実験的プログラムは、「3カ年の実践事例の特徴比較」（資料1）に示したとおり、地域特性を考慮しながら実施してきました。各年度の詳細と特徴については年度ごとの実践事例集にゆずることとし、ここでは、3年間の研究の成果の概要を紹介します。

家庭教育学級の参加対象は、本研究が対象とした幼稚園・保育所の園児や小学校の児童をもつ親のみにとどまらず幅広いものです。しかし、学習日のアンケート調査、グループ討議、体験・情報交流などからは、年齢が若い（子どもが幼い）参加者ほど、子育てに対する未熟さを自覚し多くの悩みをもっていることが明らかになりました。したがって、家庭教育学級は、親に対しても「鉄は熱い内に打て」の諺にも似て、若い親、初めて子どもをもった親にアプローチすることが重要です。これが実現できるならば、子どもが幼稚園・保育所の時点で学習した保護者は、その後、小学生、中学生へと子どもの成長にともなう生じる保護者にとっての新たな学習課題を発見し、継続的な学習に取り組むことになるであろうと考えられます。

次は学習集団の規模に関することです。家庭教育学級は、市町村教育委員会が学校・園やPTAに委託して実施する例が圧倒的多数です。受託先の中には自らの意思というよりも、上部機関に押し切られて実施するケースもあります。こうしたこともあつてか、家庭教育学級は、学習のテーマや内容よりも参加者の確保が重視され、参観日や学校行事に併せて実施される例が多くなっております。この結果、参加対象は明確化・固定化されず、PTA会員全員となっ

ていくわけです。学習日に実施してきたアンケート調査によると、参加者の満足度は、多人数の講演会等よりも少人数によるグループ討議や体験・情報交流の方が高くなっております。このため、家庭教育学級でも、各学校が学習の成果を想定して学級定員を定めているように、参加対象を固定化し、参加者にマッチする学習内容に焦点を当てる必要があります。

また、3年度とも家庭教育学級委員会を設置しましたが、継続的な学習への意欲は、明らかに家庭教育学級委員が一般の参加者よりも高いという結果が得られました。すなわち、学習の成果は、受身の学習よりも主体的な参画の方が高くなるということです。加えて、家庭教育学級委員は、自発的学級運営への関心を強くもつに至っております。こうしたことから、学習プログラムの立案および開発のためには、学習者の参画機会を確保、拡充することが有効と思われます。

さらに、プログラムの開発には、関係の機関等との連携・協力も有効であることが検証されました。連携・協力機関数は、1年次から3年次へと2倍増、3倍増されました。この結果、講師選択の幅が広がり、さらには多彩な講師の依頼、複数の講師配置などが可能となったうえに、多様な学習方法の導入も可能となり、参加者の学習意欲は一層触発高揚されました。一方、主催機関には、講師謝金等の経費が抑制され、その分学習の回数・時間数を増やすことが可能となり、さらに学習支援のためのネットワーク化が図られるなどのメリットがもたらされました。

以上は、年度によってやや濃淡があるものの、3カ年の実践で検証された事柄です。以下には、3年次に検証されたことについて紹介します。

一つ目は、プログラムの一部（P14 参照）を、保護者が「座学学習」する機会と子どもが「体験活動」する機会を両立させ同時展開したことです。保護者が子どもにとられることなく学習できることが学習効果を高めます。保護者が心置きなく学習に没頭できる条件整備もプログラム開発上必要なことであり、そのためには、関係の機関・団体等との連携協力体制の確立が求められ、あわせて、託児ボランティア等の協力を得る態勢の確立も必要でしょう。

二つ目は学習情報の提供です。家庭教育学級には「来てほしい人が参加してくれない」と、繰り返し指摘されてきました。これでは、立案されたプログラムの完成度が高くても、大きな成果が期待できません。このため茨城県水戸生涯学習センターは、すべての参加対象者に、すなわち出席者にも欠席者にも、毎回の学習の記録を「学級通信」として情報提供に努められました。この成果については検証しておりませんが、今年度は、参加者数が最終回まで減少しなかったことから、「学級通信」の発行が学習意欲の喚起に寄与したといえそうです。

三つ目は体験・情報交換の機会を増やすよう配慮したことです。子育てに関する悩みを解決する機会になるようにと、これまでは、講義の後に質問時間を設定したり、テーマごとにグループで話し合い・情報交換する方法を導入してきました。しかし、なかなか本音に迫る話し合い学習に至らなかったことを反省し、第3年次では「井戸端会議」という表記を用いて、より話しやすい雰囲気、より本音で悩みが語られ解決の糸口が見出せるよう配慮しました。このことが参加者同士の問題意識・課題の共有化が図られ、子育て学習への必要感を高めたように思われます。成人の学習では経験が教材化されるといわれるように、社会教育・家庭教育のプログラムには、体験や情報を交流する機会を豊富にすることが有効と考えられます。

誌面の都合上、研究成果の紹介はごく一部にとどまりましたが、子育ての重要性とそのため
の家庭教育振興の必要性が高まりつつある時代にあって、本研究の成果が、家庭教育に関する
学習機会の拡充に貢献できるならば幸甚の極みです。

目 次

I	学習プログラム開発の経過	1
1	学習プログラム開発のテーマ	1
2	開発テーマ設定の理由	1
3	開発事業(研究)の経過	1
4	研究の進め方	2
5	研究の内容	5
II	家庭教育に関する調査の考察	8
III	モデルとなる家庭教育学級講座一覧	9
IV	モデルとなる家庭教育学級講座の実践事例	10
1	第1回家庭教育学級講座	10
2	第2回家庭教育学級講座	12
3	第3回家庭教育学級講座	14
4	第4回家庭教育学級講座	16
	(内原地区公開講座「合同家庭教育学級」同時開催)	
5	第5回家庭教育学級講座	18
6	第6回家庭教育学級講座	20
7	第7回家庭教育学級講座	22
V	成果と課題	24
1	成果	24
2	課題	25
3	3年間の家庭教育学級講座を終えて	25
	資料集	27
	資料1 3カ年の実践事例の特徴比較	28
	資料2 平成19年度教育・子育て電話相談事業のデータから	29
	資料3 内原保育所・内原幼稚園の保護者アンケート集計結果	30
	資料4 「内原なかよし園家庭教育学級通信」(1号～7号)	32
	資料5 家庭教育に関する講座一覧(3年間の取り組み)	39

I 学習プログラム開発の経過

1 学習プログラム開発のテーマ

現代的な課題に関する学習機会の提供について（3年次）

～モデルとなる家庭教育学級講座～

2 開発テーマ設定の理由

少子高齢化社会の進展，高度情報化の進展と知識社会への移行，産業・就業構造の変化，グローバル化の進展，科学技術の進歩，家庭の教育力・地域の教育力低下等，近年の社会情勢の変化に対応するため，現代的課題に関する学習機会の提供について調査研究し，新たな学習プログラムの開発を実証的に進めることで，生涯学習の一層の振興を図る。

3 開発事業（研究）の経過

1年次（平成18年度）		2年次（平成19年度）	
研究内容	(1) 家庭教育学級に関するアンケート調査 ①県内市町村教育委員会への調査 ②県内抽出小学校への調査 (2) モデルとなる家庭教育学級講座の実施 ①実施協力校 水戸市立新荘小学校 ②実施回数（4回）	研究内容	(1) モデルとなる家庭教育学級の実施 ①実施協力校（2校合同） ア 笠間市立笠間小学校 イ 笠間市立友部小学校 ②実施回数（各学校7回）
研究の視点	・市町村の取り組みの実態 ・抽出小学校の分析 ・講座テーマ設定の工夫	研究の視点	・講座内容構成の工夫 ・選択制家庭教育学級の導入 ・合同による学習機会の設定 ・情報提供と他の団体の受け入れ
成果	・アンケート調査によって家庭教育に関する意識を把握でき，講座開設及び企画立案の参考となった。 ・学習形態を工夫したことで，自由に討論できる雰囲気が出た。 ・家庭教育に関する具体的な事例を踏まえた展開が有効であった。	成果	・効果的な学習分類表を作成したことで，学習内容を焦点化することができた。 ・選択制家庭教育学級講座を行ったことで多くの学習機会を提供することができた。 ・合同家庭教育学級講座を実施したことで参加者が自己を振り返ることができた。 ・小グループ討議を実施し，日頃の悩み等について積極的に話すことができた。
課題	・学習を促したい保護者への参加啓発や学習意欲の持続できる講座の工夫 ・父親の参加と曜日，時間設定の工夫 ・参加できない方への啓発（企業出前講座，インターネットの活用）など ・ネットワークづくり（マニュアル作成）	課題	・親子のふれあいを深める学習プログラムの開発 ・身近な地域の組織と団体との連携づくり ・家族全体で考える講座の工夫 ・講座開発に保護者も参加しては？ ・地域の方を活用した講座の工夫

3年次（平成20年度）	
研究内容	(1) モデルとなる家庭教育学級講座の実施（幼・保・小連携の家庭教育学級） ①実施協力校・・・水戸市立内原保育所・内原幼稚園 連携協力校・・・内原地区幼・小・中学校（合同家庭教育学級の実施） ②実施講座・・・7回程度（効果的な講座運営の工夫） (2) 地域関係者及び他団体との連携 (3) 多様な情報提供の工夫

4 研究の進め方

本研究は、茨城県水戸生涯学習センター内に学習プログラム開発委員会を設置して、家庭教育力の向上に寄与するためのモデルとなる家庭教育学級講座を開設し、そのプログラムの有要性を県内の幼稚園及び保育所、小学校で展開し、実証的に検証する。

本研究は昨年度と同様に、よりよい家庭教育学級講座を目指した新たな試みを取り入れた学習プログラムを立案し、実施していく。

(1) 学習プログラム開発委員会の設置

① 目 的

モデルとなる家庭教育学級講座の設定、講師選任から実施後の結果までを分析及び検証し、テーマに基づく新しいプログラムを開発することを目的とする。

② 組 織

役職	氏名	所属・職名
委員長	坂本 登	常磐大学コミュニティ振興学部教授
副委員長	大槻 啓子	水戸生涯学習センター 企画振興課長
委 員	川俣 智	水戸市総合教育研究所 指導主事
	平山 洋美	水戸市総合教育研究所 学校教育指導員
	佐藤 比呂美	水戸市内原中央公民館 社会教育指導員
	志摩 邦雄	県北生涯学習センター 事業グループ長
	根本 重巳	鹿行生涯学習センター 社会教育主事
	寺内 雅美	県南生涯学習センター 社会教育主事
	大山 邦治	県西生涯学習センター 社会教育主事
事務局	長谷川 馨	水戸生涯学習センター 社会教育主事

③ 開 催

第1回 平成20年 4月30日（水）事業の趣旨説明，日程・内容について

第2回 平成20年 5月28日（水）講座の原案作成，検討，実施準備

第3回 平成20年 8月19日（火）講座の分析，評価，課題等の検討等

第4回 平成20年11月28日（金）講座の分析，評価，課題等の検討等

第5回 平成21年 2月10日（火）まとめ，実践事例集作成

(2) モデルとなる家庭教育学級講座の実施

① 実施協力所・園：水戸市立内原保育所・内原幼稚園

② 実施協力所・園選定理由

水戸市内原地区は、以前から家庭教育学級に重点を置いた事業を進めている。各幼小・中学校における家庭教育学級の運営については、内原中央公民館が窓口となり、指導員を中心に推進、充実を図っている。また、公民館において乳幼児学級を実施しており、乳幼児をもつ保護者同士のつながりを大切にしている地域でもある。

そのような環境の中、平成19年度より内原保育所・内原幼稚園幼保一体の施設が開設され、子育て支援サービスや乳幼児保育などの幼児教育にも充実を図るとともに、保育所児と幼稚園児の混合クラスを設け、共通のカリキュラムで保育が展開されている。

なお、本事業を実施した内原保育所・内原幼稚園は、保育所の保護者と幼稚園の保護者も一体となったPTA組織が設立され、家庭教育学級においても保育所の保護者が参加できる体制ができつつある施設である。

以上のことから、今年度学習プログラム開発事業 現代的な課題に関する学習機会の提供について（3年次）「モデルとなる家庭教育学級講座」の実施協力校は、内原保育所・内原幼稚園とした。

③ 家庭教育学級委員会の設置

ア ねらい

家庭教育学級講座が円滑に展開、運営するために、従来幼稚園で実施していた家庭教育学級役員会に、学習プログラム開発委員と保育所保護者等が加わり、新たに家庭教育学級委員会を設置した。

イ 組織

役員		人数
家庭教育学級委員	委員長	1名
	幼稚園保護者	9名
	保育所保護者	4名
内原保育所・内原幼稚園担当職員（教頭）		1名
学習プログラム開発委員（事務局）		1名

（計 16名）

ウ 家庭教育学級委員会の開催

第1回	平成20年	5月10日(土)	家庭教育学級講座趣旨説明・全体構想
第2回	平成20年	6月 6日(金)	第1回目講座の事前打ち合わせ等
第3回	平成20年	6月26日(木)	第2回目講座の事前打ち合わせ等
第4回	平成20年	7月25日(金)	第3回目講座の事前打ち合わせ等
第5回	平成20年	8月30日(土)	第4回目講座の事前打ち合わせ等
第6回	平成20年	9月26日(金)	第5回、6回目講座の事前打ち合わせ等
第7回	平成20年	11月26日(水)	第7回目講座の事前打ち合わせ等

エ 活動計画及び内容

(ア) 家庭教育学級講座開設

- 期 間 平成20年6月から平成21年1月まで
- 講座回数 7回程度
- 実施時間 1回90分～180分以内

(イ) 家庭教育学級委員会の役割について

講座の運営は、主体性をもつことと円滑に進行できることを考慮し、家庭教育学級委員（保護者）が行う。

- 事前・・・保護者の意見集約，家庭教育学級委員会の実施，広報や呼びかけ等
- 当日・・・会場準備，受付，進行，講師接待，講師紹介，謝辞，開閉会式の辞，記録等
- 事後・・・アンケートの配付，回収，会場後片付け等

(ウ) 広報活動

- ・ 広報チラシ作成
- ・ 参加者の呼びかけ
- ・ 内原地区の保育所，幼稚園，小学校，中学校への情報提供
- ・ 報道機関への情報提供

5 研究の内容

(1) モデルとなる家庭教育学級講座について

① 学習分類と学習内容の活用

昨年度の「学習プログラム開発事業」において、家庭教育学級の学習分類及び学習内容について、下記の通知（昭和46年 文部省社会教育局長通知の「家庭教育学級の開設および運営について」）では、当面重視すべき主な学習内容を乳幼児期、少年期、青年期の3つの学習期に分けている。

○ 詳しい内容については、平成19年度 学習プログラム開発事業 現代的な課題に関する学習機会の提供について（2年次）「モデルとなる家庭教育学級講座」実践事例集（P4, P48）を参照

○ 実践事例集ダウンロードアドレス

<http://www.gakusyu.pref.ibaraki.jp/houkoku/program/>

その内容に基づき、昨年度の学習プログラム開発委員会が作成した学習分類と学習内容（表1）を、「モデルとなる家庭教育学級講座」の企画の参考とする。

表1 【学習分類と学習内容】

区分	学習分類	学習内容
乳 幼 児 期	①	情緒の安定をもたせる
	②	基礎的な生活習慣をしつける
	③	自然や生物を愛護する心をつちかう
	④	対人関係における自制力を身につける
	⑤	危険から身を守る能力を身につける
少 年 期	⑥	ものの感じ方・考え方の基本を育成する
	⑦	自律性や協調性をつちかう
	⑧	健康・安全についての能力を身につけさせる

② 講座運営の工夫

ア 内原地区公開講座の実施(合同家庭教育学級講座)

モデルとなる家庭教育学級講座の実施には、4月当初、内原中央公民館主催「平成20年度内原地区家庭教育学級」打ち合わせの際、内原地区の幼・小・中学校の家庭教育学級担当者に依頼した。その展開に当たっては、それぞれの学校で実施する家庭教育学級講座の1コマを公開講座「内原地区合同家庭教育学級」として位置付け、内原全地域の子どもを持つ保護者の方々に学びあう講座として実施する。

イ 学習テーマの設定

学習テーマを設定するに当たっては、昨年度の研究同様、事前調査として家庭教育に関する実施校保護者対象の事前調査及び、水戸生涯学習センターで実施している「教育・子育て電話相談事業」の平成19年度相談概要(相談件数)を検討し、今年度実施する乳幼児期等の学習内容を踏まえ、全講座共通の課題として「親の気付き、発見を助ける家庭教育学級とは？」という学習テーマのもと、各回の講座についてさらに具体的なテーマを設けることとした。

ウ 講座運営の工夫

家庭教育学級プログラム開発を行う上では、家庭教育学級委員や保護者の協力が講座を大きく左右する。家庭教育学級委員会開催時に、学習テーマやねらいについて共通理解を深め、それが達成できるような企画や運営の方法を検討し合い、より良い講座運営に努めることとした。

○ 小グループでの話し合いの重視

講義形式の講座ばかりではなく、振り返りの時間も兼ね、小グループでの話し合い（井戸端会議）を取り入れる。

○ 体験活動の導入

保育所・幼稚園の保護者のみを対象とする講義ばかりでは、参加者が少ないと思われ、また、主体的な参加や満足感が得られないと想定し、講座計画の中に、子どもと一緒に参加する活動も取り入れて実施することとした。

○ 開催日の工夫

家庭教育は母親だけの問題ではない。いかに父親を家庭教育学級等へ参加させるかが大事である。そこで、保護者の事前アンケートをもとに、家庭教育学級講座の開催日を工夫し、実践する。

○ 事後のアンケートの実施

講座実施後に必ずアンケートを実施し、次回の講座運営の検討資料として役立てる。また、次回の講座に参加しようとする意欲につなげる広報チラシや情報紙等の作成に資す。

(2) 他団体との連携

家庭教育学級委員が、講座を円滑に運営するためには、関係機関の様々な情報が必要と思われる。そこで、家庭教育学級委員に対して学習プログラム開発委員（事務局）は、他団体の情報を積極的に提供する。そうすることにより、スムーズに遅滞なく他団体との連携が図られ、多様な活動も設定できる。

(3) 情報提供の工夫

① 家庭教育学級通信の作成

ほぼ月1回の講座に、全ての保護者が参加することが望ましいが、なかなか全員の出席は難しく、欠席すると次回も出にくい思いを抱いてしまいがちである。そこで、講座修了後の参加者のアンケートや講座内容についてまとめた、「内原なかよし園家庭教育学級通信」を作成し、内原保育所・内原幼稚園の全家庭に配付する。そうして情報をお互いに共有することにより、次回の参加へと意欲をつないでいく。また、常時公民館等に掲示し、家庭教育学級講座の情報を内原地区住民へも情報を発信していく。

② 3年間実施した講座の紹介

県内市町村において、この学習プログラム開発事業で実践してきた講座内容が、各地の家庭教育学級講座の企画・運営に役立ててもらえるよう、毎回の講座の内容及びH18～H20まで、各年度の研究の成果を紹介することとした。

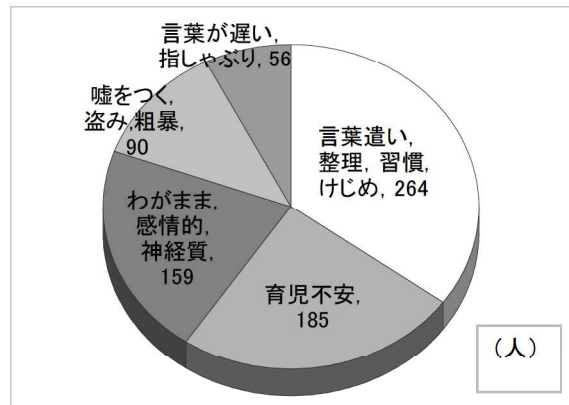
Ⅱ 家庭教育に関する事前調査の考察

「モデルとなる家庭教育学級講座」を実践するにあたって、平成19年度教育・子育て電話相談事業概要のデータや水戸市立内原保育所・内原幼稚園の全保護者を対象とした意識調査を参考とした。

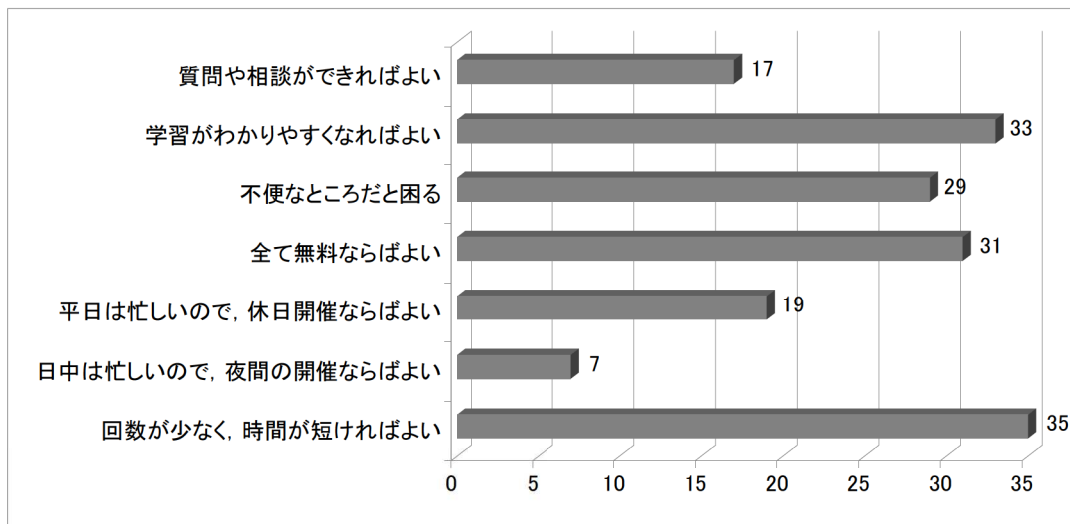
○平成19年度教育・子育て電話相談のデータ（資料2）

○内原保育所・内原幼稚園の保護者アンケート（資料3）

1 平成19年度教育・子育て電話相談概要から「習慣・しつけ・育児についての相談」(754件)



2 アンケート調査から（実施園・所保護者）・・・アンケート一部抜粋 問 家庭教育学級に関する学習が、どのようになれば参加しやすいですか？ (人)



【考察】

【教育・子育て電話相談のデータから】

- 平成19年度教育・子育て電話相談事業における相談内容の「習慣・しつけ・育児について」についての項目では、「言葉遣い、整理、けじめ」の項目が全体の三分の一を占めている。

この項目は、平成18年度の電話相談内容から比べると2倍強増えているのが現状である。また、育児不安も毎年上位を占めているのが現状である。

- 子育てをしている保護者にとって、様々な悩みがあることが十分伺える。

【内原保育所・内原幼稚園の保護者のアンケートから】

- 家庭において最も重要な教育目標は、「基本的な生活習慣」と「他人への思いやり」と答えている保護者が圧倒的に多い。また、「子どもとのコミュニケーションのとり方」を学習することも大切なことだと答えている。(資料3参照)
- 家庭教育学級に関して保護者の意見は、「回数が少なく、時間が短いもの」「学習が分かりやすければよい」という回答が多い。これは、保育所・幼稚園の保護者ばかりではなく、全体的な傾向であると思う。そこで、分かりやすく、楽しい活動内容を考えなければならない。
- 開催時間については、保育所、幼稚園ということもあり、午前中の活動時間を希望している保護者が多い。父親においてはやはり土日の開催を希望している。

Ⅲ モデルとなる家庭教育学級講座一覧

学習テーマ： 親の気付き、発見を助ける家庭教育学級講座とは？

回	学 習 内 容		会場	学習方法	学習分類
	内原幼稚園	内原保育所			
1	◎テーマ：生きる力は家庭教育で 1 開級式 2 講義・情報交換会 講 師： 茨城大学名誉教授 中原 弘之 氏		内原幼・保	情報講 義交 換	① ② ⑥
2	◎テーマ：子育てママの国際交流（世界の子育て事情を知る） 4カ国の子育てを経験している方をお招きし、それぞれの国で子育て事情・遊び等を知り、これから子育てを考える。 ★水戸市国際交流センターとの連携 ブース①： ドイツ ：渡辺ロスピタ 氏 ブース②： ミャンマー ：藤川アーカーミン 氏 ブース③： フィリピン ：平野ソリータ 氏 ブース④： アメリカ ：デレック 氏（AET）		内原幼・保	ブ ー ス 別 井 戸 端 会 議	① ② ④ ⑥
3	◎テーマ：パパと一緒に遊んじゃおう！元気アップ親子セミナー 両親と共に、遊びをとおして子どもの体力等を考える。 「元気アップ親子セミナー」の実施 ★茨城県レクリエーション協会との連携 茨城県レクリエーションインストラクター 7名		内原公民館	情 体 報 験 交 活 換 動	① ② ④ ⑤ ⑥ ⑦
4	◎テーマ：一緒に考えてみませんか！子ども達の将来のために 1 内原地区公開講座「合同家庭教育学級」（シンポジウム） コーディネーター：水戸女子高等学校長 鈴木 康之 氏 パネラー①：女性ネットワーク委員長 矢口 みどり 氏 パネラー②：保護司 吉野 由昭 氏 2 いろいろなジャンルのパネラーと共に情報交換会を行う		内原公民館	ブ ー ス ン 別 ポ シ ン ポ ジ ウ ム 交 換	① ② ④ ⑥ ⑦ ⑧
5	◎テーマ：みんなで子どもの健康と安全を考える 1 薬剤師から学ぶこと 2 警察官から学ぶこと 3 井戸端会議から ※この講座は内原保育所・内原幼稚園の家庭教育学級生が中心に企画を行う。		内原幼・保	情 学 報 習 交 換	② ④ ⑤ ⑧
6	◎テーマ：動物からの贈り物 1 講義 講師：常磐大学コミュニティ振興学部准教授 中原 史生 氏 2 移動教室 ○移動水族館（アクアワールド茨城県大洗水族館） ○移動動物園（日立市かみね動物園）		内原幼・保	体 講 験 義 活 動	① ③ ⑤
7	◎テーマ：いま大切にしたいこと 1 保育参観 2 講義・情報交換会 講師：常磐大学コミュニティ振興学部教授 坂本 登 氏 3 閉級式		内原幼・保	情 報 講 義 交 換	① ② ④ ⑥

※ 全7回の講座であったが、保護者の希望によりさらに1講座追加された。詳しい内容は、成果と課題（P24）で記述する。

Ⅳ モデルとなる家庭教育学級講座の実践事例

1 第1回家庭教育学級講座

日 時	平成20年6月17日(火) 9:00~11:30	
会 場	内原保育所・内原幼稚園 ホール	
テ ー マ	生きる力は家庭教育で	
学習形態	講義・情報交換	
学 習 分 類	① 情緒の安定をもたせる ② 基礎的な生活習慣をしつける ③ 自然や生物を愛護する力を培う ④ 対人関係における自立性を身に付ける ⑤ 危険から身を守る能力を身に付ける ⑥ ものの感じ方・考え方の基本を育成する ⑦ 自立性や協調性を培う ⑧ 健康・安全についての能力を身に付けさせる	
○印は今回の重点内容		
参 加 者	内原保育所・幼稚園保護者	
講師氏名	○ 茨城大学名誉教授 中原 弘之 氏	
時 間	学習内容・活動	学級委員としての配慮点
9:00	1 開級式 (1) 所長兼園長あいさつ (2) 家庭教育学級長あいさつ (3) 家庭教育学級の流れについて	○会場準備・受付や 駐車場係等をそれぞれ 分担する。
9:15	2 第1回「モデルとなる家庭教育学級」講座 (1) 主催者あいさつ	○司会者がスムーズ に進行を進める。
9:20	(2) 講話 「生きる力は家庭教育で」 【学習内容】 1 自分の子育ての失敗をベースに 2 子どもにずれた注文をしていないか？ ①【うそつきはオバカサン】 ②「反抗」する子は可愛くない？ ③「道草」する子は競争社会で生きて いけない子？ 3 だからといってしつけは不要？ 4 どんな親モデルが良いのか。	○講師紹介を行う。 ○中原先生の話聞き 自分の子育てにつ いて考える。
11:20	(3) 質疑応答(情報交換)	○保護者に質問を投 げかけ、ない場合に は、幾つかの質問を 用意しておく。 ○終了後片付けを素 早く行う。

<活動の様子>



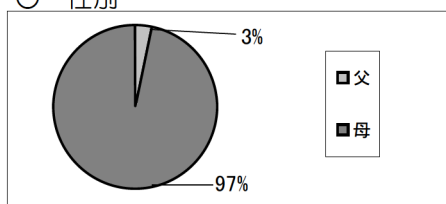
○熱心に講義をする中原先生



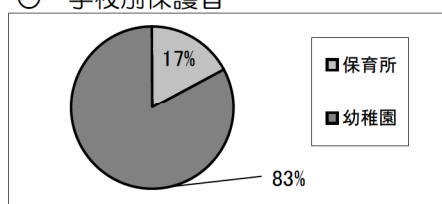
○真剣なまなざしの参加者

<アンケートの結果>

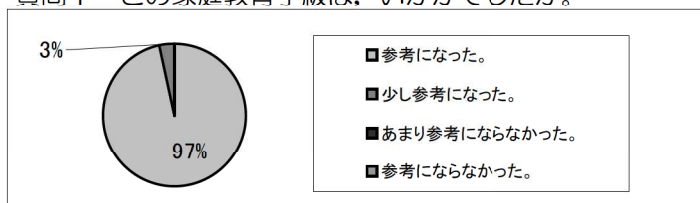
○ 性別



○ 学校別保護者



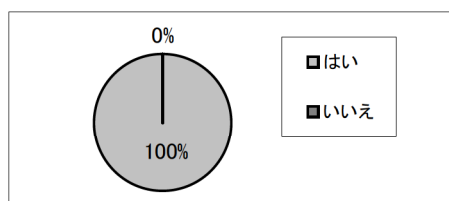
質問1 この家庭教育学級は、いかがでしたか。



質問2 今回の家庭教育学級に参加しての御意見や御感想をお聞かせください。

- 身近な分かりやすいたとえ話などがあり、今の自分と比べたり、反省したり共感することができて良かったです。
- 日頃忘れかけていた「子どもの目線」というものを思い出させていただきました。
- 話が面白く、実行できる内容でした。
- 困っていることや悩んでいる事の答えを、中原先生が答えてくださってとても勉強になりました。
- 先生の話聞き、これからは怒鳴り散らさない生活を送っていこうと思った。
- 普段ただ怒ってしまっている事が、そうではなく子どもの気持ちになって考えてあげて接する事が大切だという事を教えてもらい、とても勉強になりました。
- 今まで、子どもとどう接するべきか悩む部分も、今日の講義で「接し方」・「声掛け」によって子どもが喜ぶという事が分かりました。
- 中原先生の講義を聴いて、子育てを見直す事ができました。共働きで一日のほとんどの時間を保育所でお世話になってしまっている我が子ですが、任せきりにせず、家庭でのしつけを大切に、子どもの心を満たす品柄、親子の時間を大切にしていきたいと思いました。
- 子どもの気持ち（空想と現実）など改めて分かりました。
- 今後の子供の成長の見守り方、接し方が非常に参考になりました。

質問3 今後も、この家庭教育学級に参加したいと思いますか。

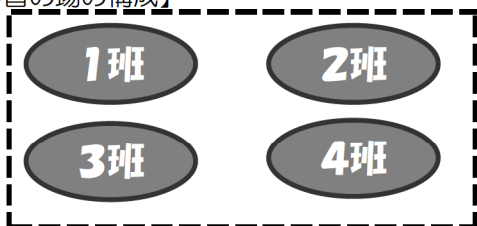


※第1回目の家庭教育学級講座と言うことで、この質問事項については家庭教育学級委員が考え作成したアンケートです。

<まとめ>

- 第1回目の保護者の出席は38名であった。（父親の参加は1名である）
- 開級式終了後、茨城大学名誉教授中原先生の「生きる力は家庭教育で」という講義をいただいた。先生は自分の体験談から、家庭教育の重要性をわかりやすく説明していただいた。
- 情報交換では、日頃の育児の悩みなどについての質問に対して、わかりやすく説明していただきました。
- 先生の一言一言が丁寧でわかりやすかったため、参加者の心に入り込んだ内容になった。

2 第2回家庭教育学級講座

日 時	平成20年7月9日(水) 9:00~11:30	
会 場	内原保育所・内原幼稚園 ホール	
テ ー マ	子育てママの国際交流(世界の子育て事情を知る)	
学習形態	井戸端会議(小グループ隊形)	
学 習 分 類	① 情緒の安定をもたせる ② 基礎的な生活習慣をしつける ③ 自然や生物を愛護する力を培う ④ 対人関係における自立性を身に付ける ⑤ 危険から身を守る能力を身に付ける ⑥ ものの感じ方・考え方の基本を育成する ⑦ 自立性や協調性を培う ⑧ 健康・安全についての能力を身に付けさせる	
○印は今回の重点内容		
参 加 者	内原保育所・幼稚園保護者	
講師氏名	○ ドイツ : 渡辺ロスピタ 氏 ○ ミャンマー : 藤川アーカーミン 氏 ○ フィリピン : 平野ソリータ 氏 ○ アメリカ : デレック 氏(水戸市AET)	
時 間	学習学習内容・活動	学級委員としての配慮点
9:15	○ 開会行事 ・ 講師紹介 ・ 本日の学習についての説明	○会場準備・受付や駐車場係等をそれぞれ分担する。
9:30	○ 学習会(井戸端会議) 「子育てママの国際交流」 ・ 学級生を4グループに分け、世界の国めぐりと題して、4つのブースをローテーションしながら、それぞれの国の風習や子育ての仕方などを講師の方に話してもらい、質問をしていく。 【学習の場の構成】  1班 : ドイツ 2班 : ミャンマー 3班 : フィリピン 4班 : アメリカ ・ 4つの班を25分ずつローテーションする。	○参加者に番号の書いてある札を渡し、4つのグループに分ける。 ○学級委員が2名ずつそれぞれのグループに入り、司会をしながら進行する。 ○学級委員(教頭)がタイムキーパーになり、時間がきたらローテーションさせる。 ○いくつかの質問事項を用意しておき、話がとぎれないようにする。 ○終了後片付けを素早く行う。
11:30	○ 閉会行事	

<活動の様子>



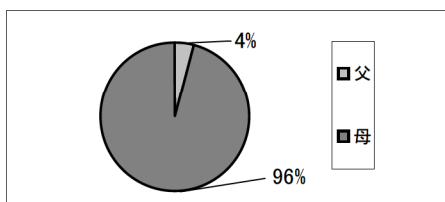
○子育てについて話していただく講師の方々



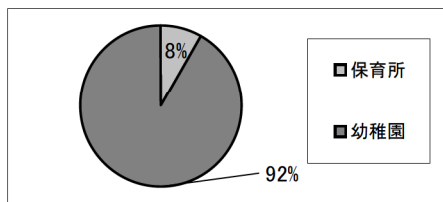
○講師の先生とともに熱心に話し合う。

<アンケートの結果>

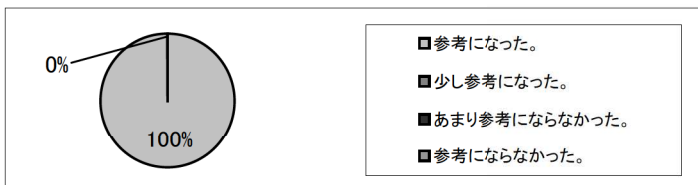
○ 性別



○ 学校別保護者



質問1 この家庭教育学級は、いかがでしたか。



質問2 今回の家庭教育学級に参加しての御意見や御感想をお聞かせください。

- 各国それぞれの文化の違いがとても面白く、教育に関しても色々と参考にしたいと思うことがたくさんありました。
- 4カ国の方々の楽しい話を聞けて大変良かったです。今の日本の裕福な生活、お金では買えない家族の在り方など考える良い機会になりました。
- どの講師の方も真剣に子どもを愛し、親を愛しているのだと感じました。私は、形の上で子どもを愛していると仮定して怒っていたような気がします。これからは、怒るのではなく、愛を込めて叱りたいし、自分も成長していきたいです。
- 色々な国の子育てにふれることができ、楽しい時間でした。夫にも、子育てに参加してもらえるよう頑張ります。
- 少人数での話だったので、アットホームな感じでとても良かった。
- 正直言って参加することにあまり乗り気ではなかったのですが、各国の子育ての事や国の事などを聞いたりできたので良かったです。
- どの国の方々も子どもを大切にしている事が伝わりました。
- 色々な国の子育て観を聞く事で世界が広がった気がします。
- どの国の方も子どもを叱るときは、愛情をもって「いけないことをしたことをよく分からせる」事が大切だと言っていました。私は、今までただ文句を言っていただけのような気がして考えさせられました。

質問3 今後、家庭教育学級にはどのようなことを期待しますか。

- 興味深い事、あまり堅苦しくない事、楽しくためになる事です。
- 経験したことのないことをしてみたいです。
- 色々な環境の方々と接して、たくさんの情報交換をした。
- これからも今回や前回と同様に、とてもためになる話などが、分かり易くしてもらえ事を期待しています。
- 色々なお母さんと仲良くなれるような勉強会になればと思います。
- 楽しく会話ができ、ざっくばらんに話ができる会にしてほしい。

<まとめ>

- 第2回目の保護者の出席は、33名であった。（父親の参加1名であった。）
- 保護者を無作為に4つの班に分け、25分ごとにローテーションしながら4カ国の子育てなどについて意見交換をし、日本とその国の文化の違いについて理解できた。
- 講師の先生方も保護者の質問に対して、真剣に回答していただき時間が足りなかったようである。
- 保育所の保護者の参加が5名であった。もう少し保育所の参加率を高める手だてが必要である。

3 第3回家庭教育学級講座

日 時	平成20年8月30日(土) 9:00~12:30		
会 場	内原中央公民館		
テ ー マ	パパと一緒に遊んじゃおう! 元気アップ親子セミナー		
学習形態	体験活動・情報交換		
学 習 分 類	① 情緒の安定をもたせる ② 基礎的な生活習慣をしつける ③ 自然や生物を愛護する力を培う ④ 対人関係における自立性を身に付ける ⑤ 危険から身を守る能力を身に付ける ⑥ ものの感じ方・考え方の基本を育成する ⑦ 自立性や協調性を培う ⑧ 健康・安全についての能力を身に付けさせる		
○印は今回の重点内容			
参 加 者	内原保育所・幼稚園, 内原地区幼稚園, 小学校保護者・園児, 小学生等		
講師氏名	○ 茨城県レクリエーション協会 インストラクター 7名		
時 間	学習学習内容・活動		学級委員としての配慮点
9:00	○ 開会行事 ・ 主催者挨拶 ・ 来賓挨拶 ・ 指導者紹介 ・ オリエンテーション ◎ 「元気アップ親子セミナー」実施		○会場準備・受付や駐車場係等をそれぞれ分担する。 ○講師の方の補助に入る。
9:15	保護者向け活動 「保護者セミナー」 ○講義「子どもの心と体」 県レク指導者 1名	子供向け活動 「チャレンジ・ザ・ゲーム」 ○ニュースポーツ体験 県レク指導者 3名	
10:25	【親子で一緒に「元気アップ・エクササイズ」】 ○親子で楽しく運動しよう。 県レク指導者 4名		○子ども達の所へも何名か配置し、小さい子どもの世話をするように配慮する。
11:10	【親子で「アイーダ アイーダ」体操 ○「アイーダ アイーダ」体操 県レク指導者 5名		
12:00	子育てしゃべり場 ○井戸端会議 子育ての悩みなど 県レク指導者 1名	いろいろクラフト ○ ふわふわボール ケン玉づくり 県レク指導者 3名	○しゃべり場ではグループ毎に司会者となり、参加者の意見を集約する。
12:30	○ 閉会行事 ・ 講評		○終了後片付けを素早く行う。

＜活動の様子＞



○保護者セミナー



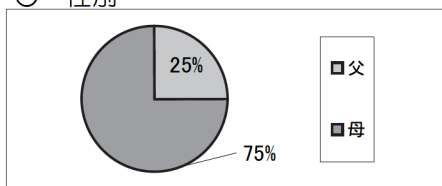
○子育てしゃべり場



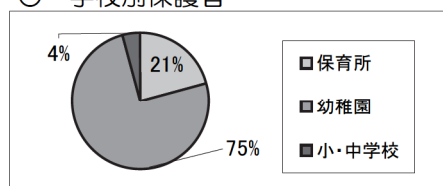
○元気アップ・エクササイズ

<アンケートの結果>

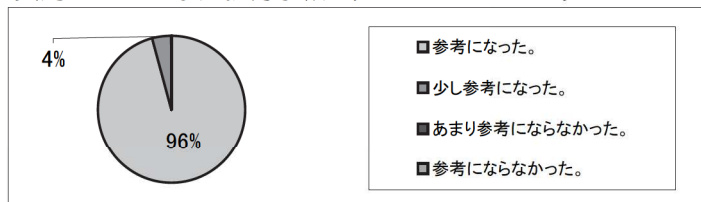
○ 性別



○ 学校別保護者



質問1 この家庭教育学級は、いかがでしたか。



質問2 今回の家庭教育学級に参加しての御意見や御感想をお聞かせください。

- 親子で身体を動かす貴重な機会でした。
- 中身の詰まったお話が聞けて、とても参考になりました。
- 子どもと一緒に身体を動かす事ができて、楽しかったです。
- 孫との接し方について、親とは立場が違うが参考になった。食べ物に関しても好き嫌いが多く、全て食べるように育てるのに苦慮している。
- 普段なかなか遊ぶことがないので、とても良い時間が過ごせました。
- 講師の先生の話がとてもためになった。もっと聞きたいと思った。いただいた冊子をよく読んでみようと思いました。また、身体を動かす体操も子どもは喜んでいて、簡単なものは家でもやってあげたい。
- 子どもの成長は家庭環境がとても大事だということが分かりました。子どもを怒るのではなく、叱ることが大切だと分かりました。
- どんな時でも私にべったりの娘が、今日は娘の方から離れていったのでビックリしました。今までで初めてかも！とても楽しそうに踊っている娘を見て、今日は参加できて良かったと思います。
- 小学生になるとなかなか一緒に運動することがなくなるので、今日は久しぶりに子どもと運動できてとても楽しかったです。

質問3 今回参加できなかった方へ伝えたいことはありますか。

- 出席してみれば楽しいことがあることを分かってほしいです。
- 最初は面倒だと思っていたセミナーですが、参加して良かったと思いました。結構楽しめたので・・・
- 内容もとても充実していたので、もっと多くの人が参加してくれると良かったです。

質問4 今後、家庭教育学級にはどのようなことを期待しますか。

- このような場を、土・日に設定し、行ってくれると参加しやすい。
- みんなと話のできる時間をもちたいです。
- 体力が大事！朝食も大事！面白かったと伝えたい。
- 講座が長かったので、短くしてほしい。

<まとめ>

- 第3回目は、保護者と幼児・児童合わせて77名の参加者であった。（33名の保護者のうち12名が父親の参加者であった。）
- 多彩なプログラムで実施したので、保護者も子ども達も楽しく活動できた。
- 子ども達の体力に関するセミナーや保護者同士の井戸端会議をも桁ことにより、他の家族との情報交換が活発になった。
- 地域の行事に重なり思うような応募状況ではなかったのが残念である。

4 第4回家庭教育学級講座（内原地区公開講座「合同家庭教育学級」同時開催）

日 時	平成20年9月26日（金）9：30～12：30	
会 場	内原中央公民館	
テ ー マ	一緒に考えてみませんか！子ども達の将来のために	
学習形態	シンポジウム・情報交換	
学 習 分 類	① 情緒の安定をもたせる ② 基礎的な生活習慣をしつける ③ 自然や生物を愛護する力を培う ④ 対人関係における自立性を身に付ける ⑤ 危険から身を守る能力を身に付ける ⑥ ものの感じ方・考え方の基本を育成する ⑦ 自立性や協調性を培う ⑧ 健康・安全についての能力を身に付けさせる	
○印は今回の重点内容		
参 加 者	内原保育所・幼稚園保護者、内原地区幼・小・中学校保護者等	
講師氏名	○コーディネーター：水戸女子高等学校長 鈴木 康之 氏 ○パネラー：女性ネットワーク委員長 矢口みどり 氏 ○パネラー：保護司 吉野 由昭 氏	
時 間	学習学習内容・活動	学級委員としての配慮点
9:00	○ 開会行事 ・ 主催者挨拶 ・ 来賓挨拶 ・ 各講師紹介	○会場準備・受付や駐車場係等をそれぞれ分担する。
9:15	1 シンポジウム ○ コーディネーターの挨拶 ○ パネラーの意見交換 ○ シンポジウム 【話し合いの柱】 ①基本的な生活習慣（しつけ）、ものの感じ方・考え方の基本を育成する。 ②子ども達を取り巻く環境について ③学校・地域・家庭の連携について ④いま大人ができることは？ ○ まとめ	○コーディネーター及びパネラーの紹介をする。 ○シンポジウムを聞いて自分の子育てについて考える。 ○家庭教育学級委員がグループの人数の調整役となる。 ○保護者に質問を投げかけ、ない場合には、幾つかの質問を用意しておく。 ○終了後片付けを素早く行う。
11:45	2 小グループによる井戸端会議 Aグループ：教育全般に関して Bグループ：情報メディア・食育等に関して Cグループ：地域の取り組みに関して	
12:30	○ 閉会行事	

<活動の様子>



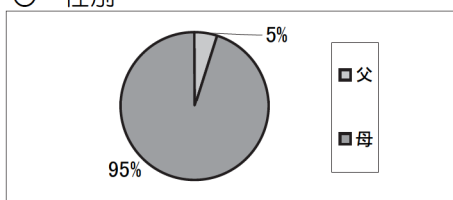
○シンポジウムの様子



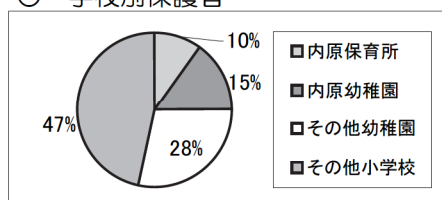
○井戸端会議の様子

<アンケートの結果>

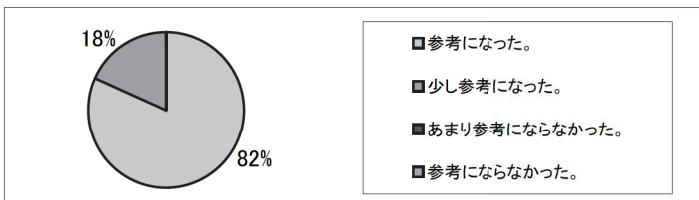
○ 性別



○ 学校別保護者



質問1 この家庭教育学級は、いかがでしたか。



質問2 今回の家庭教育学級に参加しての御意見や御感想をお聞かせください。

- コミュニケーション、会話の大切さを改めて感じることができた。
- 現在の子どもを取り巻く様々な問題に悲観になっていた今日この頃でしたが、解決の糸口を見た気がしました。
- 子育てをしていますが、子育てについて真剣に考えたことがなかったので、今後精神的に成長する子どもに対して参考になることが多かった。
- 子どもとメディアに関心がありました。貴重な話が聞けました。
- 教育としつけなど家庭での親の役割を改めて考えることができ、参加して良かったと思いました。
- 自分の家事をこなすために、子どもをDVD依存にさせてしまっている事を気付かされました。将来ネットや携帯依存にさせないためにも気を付けさせたいと思いました。
- 初めてこの講座に参加したのですが、また参加したいです。
- パネラーの先生方が多方面から話をしていただいたのが良かった。
- 話の内容が充実していたせいか、時間が短かったように思います。
- 子育てについての講演は、これまでも何回もありましたが、今回の様にいろいろな立場に立ったシンポジウムは聞きやすく良かったです。

質問3 今回参加できなかった方へ伝えたいことはありますか。

- 楽しい、面白い。またすぐ参考になる話が聞けます。
- 子育て、生活全てにおいて、ささいな悩みでも解決できる場だと思いました。
- 当たり前の子どもを育てることの中で、嬉しさ・楽しさを見付けるヒントがあることを教えてくれます。

質問4 今後、家庭教育学級にはどのようなことを期待しますか。

- みんなが楽しい時間を過ごせることを期待します。
- このようなシンポジウムを年1回はやってほしい。
- いろいろな分野の先生の話が聞いてみたい。
- ◎ この場へこれられない方々へ情報発信をしてほしい。

<まとめ>

- 第4回目は公開講座ということで、85名の参加者だった。(内原地区幼・小・中学校保護者は60名の参加であった。)
- 講座内容に変化を与えることで、参加者の出席率が増える。シンポジウム形式も良いプログラムの一つである。また、シンポジウム終了後、講師の先生を交えた井戸端会議を実施した。参加者の本音が伺えた。
- 内原保育所・内原幼稚園の出席してくれる保護者が決まってきている。出席できない保護者への手だてをさらに考える必要がある。

5 第5回家庭教育学級講座

日 時	平成20年10月22日（水） 9:00～11:30		
会 場	内原保育所・内原幼稚園 ホール		
テ ー マ	みんなで子どもの健康と安全を考える		
学習形態	学習会・情報交換		
学 習 分 類	1 情緒の安定をもたせる ② 基礎的な生活習慣をしつける 3 自然や生物を愛護する力を培う ④ 対人関係における自立性を身に付ける ○印は今回の重点内容 ⑤ 危険から身を守る能力を身に付ける 6 ものの感じ方・考え方の基本を育成する 7 自立性や協調性を培う ⑧ 健康・安全についての能力を身に付けさせる		
参 加 者	内原保育所・幼稚園保護者		
講師氏名	○ 薬剤師 鶴岡薬局 鶴岡 氏 ○ 警察官 水戸警察署生活安全課 桑島 氏		
時 間	学習学習内容・活動		学級委員としての配慮点
9:00	○ 開会行事 ・家庭教育学級委員長挨拶 ・講師紹介		○会場準備・受付や 駐車場係等をそれぞれ分担する。
9:15	1 薬剤師 鶴岡先生の講義 【子ども達の健康に関するキーワード】 ① 母乳の意味 ② 睡眠の意味 ③ 食べること ④ 呼吸の大切さ ⑤ 健康情報の質		○司会者の進行で第1部を進める。 ○質問事項を保護者に投げかける。
10:20	2 水戸警察署 桑島先生の講義 ○ 最近の盗難事故について ○ 振り込み詐欺の手口について ○ 身近な防犯状況 ○ 実技「護身術」		○司会者の進行で第2部を進める。 ○質問事項を保護者に投げかける。 ○護身術を指導してもらいながらとにかく楽しむ。
11:10	3 井戸端会議		○終了後片付けを素早く行う。

＜活動の様子＞



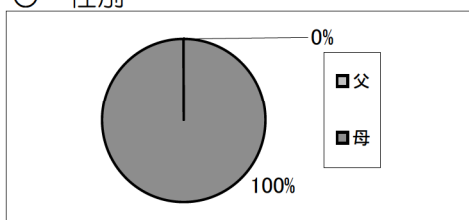
○鶴岡薬剤師の講義



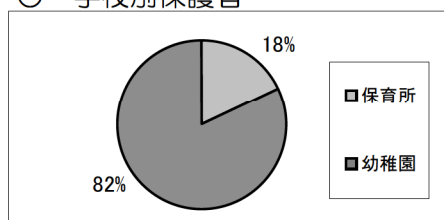
○水戸警察署生活安全課桑島係長の講義

<アンケートの結果>

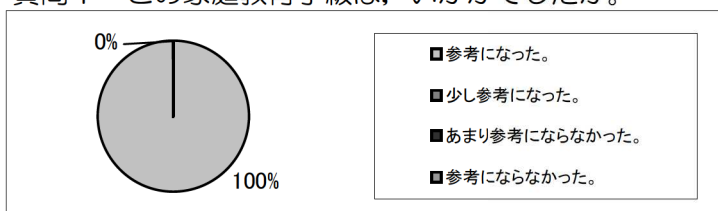
○ 性別



○ 学校別保護者



質問1 この家庭教育学級は、いかがでしたか。



質問2 今回の家庭教育学級に参加しての御意見や御感想をお聞かせください。

【薬剤師の先生の話】

- 薬剤師の方から、睡眠の大切さや腸の冷えなどとても参考になるお話でした。
- 子どもがアトピーで悩んでいましたが、腸の中の温度でアトピーが出ることが分かり、これからのおやつとの与え方を工夫します。
- 病気との付き合い方を考えさせられた。食事の大切さ、生活のリズムは生きることにとって本当に基本であることが再認識できた。
- 母乳の意義の話はためになりましたが、手遅れだと思いました。睡眠と食のお話は貴重で、食物の温度など詳しく伺いたいと思いました。

【警察署の先生の話】

- 警察署の方からは、自分の身を守るための護身術を教えていただき、手の払方などを家で子どもと体験したいです。
- 目の届くところに子どもを置くことが一番安心ですね。
- 防犯に関してとても参考になりました。ちょっとした油断が大きな事故につながるので気を付けたいと思います。

【講座全体を通して】

- 普段の生活の中で気を付けなくてはならないことがとてもたくさんあったので、今回参加していろいろと教えていただいて良かったと思いました。
- この講座を聞き、食生活や身の回りの環境について再確認します。
- 家の周りの危ないところを子どもの目線で探して、子どもに注意をする目をもたせたいと思いました。
- 一人目の子どもはもう大きいのですが、その子が小さいうちに、この話が聞きたかったです。

質問3 今後、家庭教育学級にはどのようなことを期待しますか。

- 今回のように、親が学習できる場があるといいと思います。
- これからもこのような内容の家庭教育学級を期待します。
- 今まで全部為になりました。これからもよろしくお願いします。
- 講座を行う上で、テーマは一つの方が良かった。

<まとめ>

- 第5日目の保護者の出席は、31名であった。（保育所の出席者は5名である）
- 今回の講座の企画・運営はすべて家庭教育学級委員（保護者）で行った。講座の流れは、栄養士から乳幼児の健康について話をしてもらい、水戸警察署生活安全課係長から、防犯事情と簡単な護身術を教えていただいた。参加した保護者は、熱心に参加していた。
- 参加できない保護者についてのアプローチが大切である。

6 第6回家庭教育学級講座

日 時	平成20年11月19日(水) 9:00~11:30	
会 場	内原保育所・内原幼稚園 園庭, ホール	
テ ー マ	動物からの贈り物	
学習形態	講義・体験活動	
学 習 分 類	① 情緒の安定をもたせる ② 基礎的な生活習慣をしつける ③ 自然や生物を愛護する力を培う ④ 対人関係における自立性を身に付ける ⑤ 危険から身を守る能力を身に付ける ⑥ ものの感じ方・考え方の基本を育成する ⑦ 自立性や協調性を培う ⑧ 健康・安全についての能力を身に付けさせる	
○印は今回の重点内容		
参 加 者	内原保育所・幼稚園保護者, 園児, 支援センター保護者等	
講師氏名	○ 常磐大学コミュニティ振興学部准教授 中原 史生 氏 ○ アクアワールド茨城県大洗水族館(移動水族館) 職員 3名 ○ 日立市かみね動物園(移動動物園) 職員2名	
時 間	学習学習内容・活動	学級委員としての配慮点
9:00	○ 開会行事 ・ オリエンテーション	○会場準備・受付や 駐車場係等をそれぞれ 分担する。
9:10	1 講義(第1部) ○講師 常磐大学コミュニティ振興学部 准教授 中原 史生 氏 ○テーマ 動物からの贈り物 ①動物の子育てについて ②動物と子どもの関係	○司会者の進行で第 1部を進める。 ○質問事項を保護者 に投げかける。
10:10	2 体験教室(移動動物園・移動水族館) ※ 命の大切さを知るための体験活動を行う。 ○ アクアワールド茨城県大洗水族館 ①海の生物について知る。(レクチャー) ②ふれあい体験活動 カニ, ヒトデ, 虎鯨のブースでふれあう。 ○ 日立神峰動物園 ①小さな動物の命について知る ②ふれあい体験活動 モルモット, ウサギ, ヘビとふれあう。	○自分の子どもと一 緒に行動し, 先生と ともに子ども達の面 倒をみる。 ○子ども達と一緒に 自分も楽しむ。 ○終了後片付けを素 早く行う。
11:30		

<活動の様子>



○移動水族館



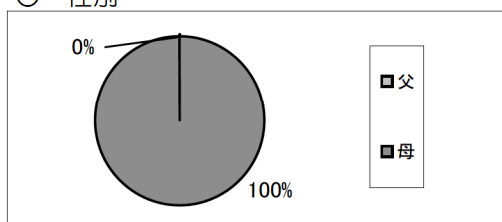
○動物からの贈り物
中原先生の講義



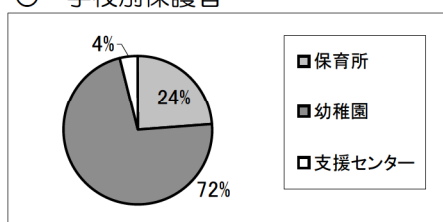
○移動動物園

<アンケートの結果>

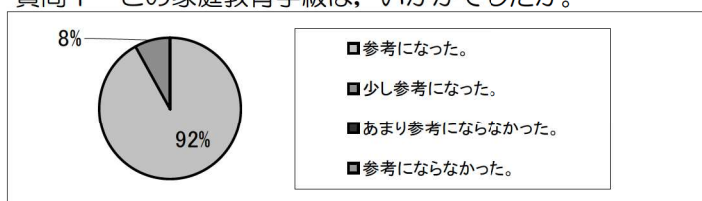
○ 性別



○ 学校別保護者



質問1 この家庭教育学級は、いかがでしたか。



質問2 今回の家庭教育学級に参加しての御意見や御感想をお聞かせください。

【第1部 講義】

- 人間と野生動物との子育ての違いが面白かったです。
- 動物でも人間でも親子の絆はあります。自分を置き換えて考えることができました。「子育ては学習だ」と言っていましたが、人生の学習の一部だし、それを講師の先生が分かりやすく教えてくれました。
- 母と子どもはいつも一緒にいるなど、動物も人間と同じような子育てをしていることが分かりました。
- 自分の子育てと動物の子育ての違いはたくさんあるけれど、共通な点もたくさんあった。”本能で子育てできない”は印象的だったし、肩の荷が降りた気もする。
- 動物の親子、友達関係、子育てなど学ぶところがたくさんありました。

【第2部 移動教室】

- 直接生き物にふれることができとても良かったです。
- 子どもと一緒に動物とふれあうことができ、命や自然について学ぶことができました。子ども達の笑顔がとても素敵でした。
- 子ども達の様子もよく見られたし、一緒に活動できたことが良かった。先生の講義も面白かった。

質問3 今回参加できなかった方へ伝えたいことはありますか。

- 参加すればたくさんのことが学べるので、積極的に参加した方が良いと思います。
- もっと楽に客観的に子育てを見直せば、恐ろしい事件や虐待は防げると思う。
- 動物から学ぶことはたくさんあります。

質問4 今後、家庭教育学級にはどのようなことを期待しますか。

- 子育てに直接関わること、話を聞くだけでなく、様々な人と意見交換ができる場を提供してもらいたい。
- 現在のいじめ等に対する現実のような講座を開いてほしい。

<まとめ>

- 第6回目は232名の参加者であった。（保護者は75名の参加であった。）
- 題材が良かったのか、今回の講座はたくさんの保護者が参加してくれた。やはり、水族館・動物園の移動教室が魅力的であった。
- イルカやチンパンジーなど動物の子育てについて事例を交えて講義をいただいた。
- 体験活動を行ったことで、園児と保護者のふれあいもできた事業であった。

7 第7回家庭教育学級講座

日 時	平成21年1月29日(木) 9:00~11:30	
会 場	市原保育所・内原幼稚園 保育室, ホール	
テ ー マ	いま大切にしたいこと	
学習形態	講義・情報交換	
学 習 分 類	① 情緒の安定をもたせる ② 基礎的な生活習慣をしつける ③ 自然や生物を愛護する力を培う ④ 対人関係における自立性を身に付ける ⑤ 危険から身を守る能力を身に付ける ⑥ ものの感じ方・考え方の基本を育成する ⑦ 自立性や協調性を培う ⑧ 健康・安全についての能力を身に付けさせる	
○印は今回の重点内容		
参 加 者	内原保育所・幼稚園保護者	
講師氏名	○ 常磐大学コミュニティ振興学部教授 坂本 登 氏	
時 間	学習学習内容・活動	学級委員としての配慮点
9:00	1 保育参観 ○ 各保育室での保育参観	○会場準備・受付や駐車場係等をそれぞれ分担する。 ○保育参観終了後参加者への呼びかけをする。 ○司会者の進行でスムーズに進める。
10:00	2 講義 ○主催者挨拶 ○講義テーマ:「いま大切にしたいこと」 ①はじめに ②狼になった子, 鬼になる親 ③なぜ赤頭巾ちゃんは狼に食べられたか ④少子高齢化は子育て問題 ⑤子どもたちに見抜かれている親・大人 ⑥『100番目のサル』が語る ○質疑応答	○坂本先生の話聞き自分の子育てを振り返る。 ○参加者へ質問を促す。特に、父親を指名する。
11:20	3 閉級式 ○ 所長兼園長挨拶 ○ 家庭教育学級長挨拶	○終了後片付けを素早く行う。



<活動の様子>



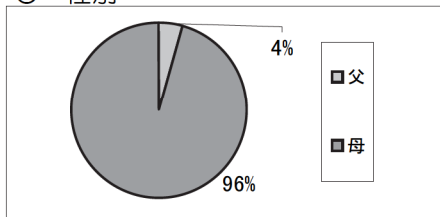
○常磐大学坂本先生の講義



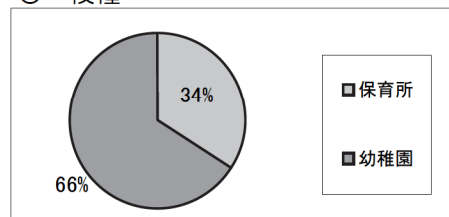
○真剣なまなざしの参加者

<アンケートの結果>

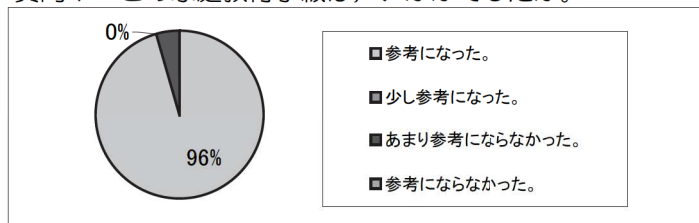
○ 性別



○ 校種



質問1 この家庭教育学級は、いかがでしたか。



質問2 今回の家庭教育学級に参加しての御意見や御感想をお聞かせください。

- 「子どもは親にかなわないのではなく、親が子どもにかなわない」という言葉がとても心に残りました。
- 子どもに対して親の勝手な「勘違い」をしているのではないかと思いました。この時期にお話が聞けて良かったです。
- とても考え深い内容で、改めて家庭教育の大切さを思いました。家族の絆を大事に生活していこうと思いました。
- 「親が勉強する」という話を聞いて、私は親として大丈夫ただただろうかと心配になりました。今日のお話を忘れずにこれからの子育てを頑張っていきたいと思いました。
- 「親子の絆を形成するには本気の努力が必要」という言葉が印象的でした。親のエゴを子どもに押しつけてもいけないし、子どもの言うがままでもいいけない。親子は一つのことを楽しんで成長していけたら素晴らしいと思いました。
- 「絆」をどう築くかということに、ハッとさせられました。
- 子どもたちに見抜かれている点などは心当たりがあるのでとても参考になりました。

質問3 今回参加できなかった方へ伝えたいことはありますか。

- できれば父親に率先して聞いてもらいたかった。夫婦で子育ての方向性を見つめ直せる機会です。
- 参考になるお話もたくさんあったので是非参加してください。
- 子どもはこれからたくさんのことを学び成長していきますが、親は勉強することがほとんどありません。たまに勉強する機会として、この講座に参加するのも良いと思います。

質問4 家庭教育講座全体を通しての御意見や御感想を聞かせてください。

- いつも自分の子育てについて考えさせられることもあり、とても勉強になりました。
- 仕事をしているので毎回参加は難しかったのですが、参加するととても楽しめる内容でした。係の方本当にありがとうございました。

<まとめ>

- 第7回目は、69名の参加者であった。（保育所の保護者23名の参加でる。）
- 保育参観を取り入れたのでたくさんの保護者が出席した。
- 坂本先生の講義では、特に、狼に育てられた子どもの事例等をわかりやすく説明していただき、保護者は改めて子育ての重要性を感じ取っていた。
- 父親の参加が2名であった。子育ては母親任せの傾向はあるようだが、父親の参加ができるプログラムの工夫がさらに必要である。

Ⅳ 成果と課題

1 成果

(1) モデルとなる家庭教育学級講座について

① 学習分類と学習内容について

プログラムの編成に当たっては、昨年度作成した家庭教育学級の「学習分類と学習内容」について本年度も活用した。これを保護者代表による家庭教育学級委員会の開催時に必ず提示したことによって、保護者はともに講座考える手立てとして活用することができた。やはり、保護者に理解してもらうためには、たたき台になる資料が大切である。

② 講座運営の工夫

ア 公開講座の実施に関すること

内原地区は、公民館を窓口家庭教育学級が充実している地域である。そこで、当家庭教育学級を今回内原保育所・内原幼稚園のみではなく、内原地区全体（他の幼稚園及び小中学校の保護者にも呼びかけ）の公開講座として実施したところ、たくさんの参加を得られることができた。専門家の講師による、家庭・地域・学校等多方面から家庭教育の重要性について分かりやすく、丁寧な指導もあって、当学級の参加者と公開講座に参加した保護者の納得・共感が得られた。やはり、家庭教育の重要性を広げていく上では、地域ぐるみで考えていく場面があることも大切である。

イ 学習テーマの設定に関すること

今回の学習テーマを設定していく上で、全体のテーマは「親が気づき、発見できる家庭教育学級とは？」とすることと開発委員会で決定した。各回ごとのテーマについては、開発プログラム委員のみで設定せず、家庭教育学級委員（保護者）の意見を反映しながら設定していった。そのことが、自分たちで講座を運営しているという意識を、学級委員に芽生えさせ向上させることに繋がったと考えられる。

ウ 講座運営の工夫に関すること

○ 小グループでの話し合い（井戸端会議）をできるだけ各回に取り入れたことにより、参加者は日頃抱えている子育てに対しての不安や悩みについて、本音で話し合える場が積み重ねられ、学習が自主的、主体的に行われるようになったと評価している。やはり、講義だけでは参加者の意欲向上に繋げることが困難であろう。今回取り入れた方法は有効的であり、これを積極的に導入し学級生同士励まし合えるように展開するのがよいと考えられる。

○ 講座運営の中に、子ども達と親がふれあう体験活動を取り入れた。この結果、3回目と6回目は大幅な参加率につながった。幼児期の子どもを持つ保護者を対象に実施する家庭教育学級では、親の学習場面と子どもの居場所、あるいは親子の同時活動等をどう組み合わせるかを十分に考慮することが必要である。

○ 幼稚園等の家庭教育学級では、子ども達が通園している時間帯が有効と思われる。しかし、家庭教育は母親のみの教育ではないことを考慮して、今回は、父親が参加しやすい休日に実施する方法を試みた。結果としては、両親での参加や父親のみの参加などが増えた。やはり、土日開催の講座が有効であることが検証された。

○ 企画・運営に主体的に参画するは、家庭教育学級委員の家庭教育に対する意識改革のみならず、学級の運営に若い親の力を集結させ、協力して実現していく力の育成にもつながった。これを裏付けるように、全日程終了後、家庭教育学級委員による自主企画の「サプライズ講座（第8回目）」が実施された。内容は、保護者同士で体験する講座で、まさしく保護者自ら学習していく講座の成立を見た思いがする。

(2) 他団体との連携

今回の「このモデルとなる家庭教育学級講座」においては、他団体との連携による展開を配慮した。そのひとつが、親と子どもと一緒に活動できる場を設定する際に推進した連携である。

特に、茨城県レクリエーション協会の協力を得て実施した「元気アップ親子セミ

ナー」，「アクアワールド茨城県大洗水族館」や「日立かみね動物園」の協力で移動教室の方式によって，「動物からの贈り物」というテーマでの学習を設定できたことは，親の学習への集中を図る上でも，子どもの体験機会の拡充や親子のふれあう機会等を確保する上でも大変有効であった。

(3) 情報提供の工夫

参加できなかった保護者のために，毎回の学習の内容や参加者の意見，感想などをもとに「家庭教育学級通信」を発行した。

参加できなかった保護者に対して，この講座のPRと，次回の参加を奨励するためのスタートであったが，参加した保護者からも心待ちされ，この通信を介して親同士の交流につながるなど，この通信は大きな成果を挙げた。このことによって主催者と参加者の評価が共有されたように思われる。

(資料4「内原なかよし園家庭教育学級通信参照」)

2 課題

(1) モデルとなる家庭教育学級講座について

- 昨年度作成した学習分類等の資料をもとに，今回学習テーマ及び内容を実践したが，参加者や地域ニーズにあったかは疑問が残る。さらに継続して，内原の地域の特性や保護者に合わせ，適切な学習課題を追求していく必要がある。
- 講師の話が分かりやすい説明であっても，参加した保護者が幅広い年齢層のため，学習テーマが漠然と受け止められていた感がある。主催者側としては，保護者のニーズを的確に把握するため，事前に参加者にアンケートを採る必要があったのではないかなと思われる。また，今回は意図的に託児ボランティアを設けなかったが，参加者の一部からは，「子どもの声がうるさくて聞こえなかった。」という意見も聞かれた。家庭教育学級の場合には，参加者数が多くなればなるほど，託児を設ける必要があると思われる。
- 本事業は，「親が気づき，発見できる家庭教育学級とは？」という大きな学習テーマのもと実践したが，もっと具体的な内容と明確化した課題の方が参加者の課題に迫れたのではないかなと思われる。
- 参加者が日頃の悩みや不安を出し合い話し合いを充実させるためには，グループをまとめていくリーダーを養成する必要がある。そのためにもまた，講座の中でもっと話し合う時間を確保することが必要と思われる。
- 参加者の問題意識を啓発し学習の成果を高めるためには，学習テーマに沿った様々な体験交流の機会を意図的に取り入れ，参加者が考える場面を設ける必要がある。
- 父親の参加を助長するためには，PTA行事や地域行事等も把握しながら開催日を決定する必要がある。

(2) 他団体との連携

- 家庭教育学級講座をより質の高い講座にするためには，今後，生涯学習関係機関が窓口となり保護者のニーズに応えられるような講師など，様々な情報を収集し，助言する必要がある。

(3) 情報提供の工夫

- 今後，家庭教育の支援・充実を図る上では，学級講座方式によって1カ所に参加者を集めて行う形から，企業等への出前講座やインターネット等での在宅でも学習できる形のものも開発していく必要がある。

3 3年間の家庭教育学級講座を終えて

家庭教育の振興に寄与するため，家庭教育学級に関するプログラム開発事業と取り組み，3年間に3カ所で「モデルとなる家庭教育学級講座」を研究指定して実施してきた。その結果，公民館や学校のみで託して実施する家庭教育学級では，家庭教育の振興やそのためのプログラム開発に限度があることが理解できた。家庭教育を支援しその振興を図るためには，再度原点に立ち返って，地域，家庭，学校が協働し，より向上できるよう行政がより積極的に家庭教育学級の振興に取り組む必要があると考える。

資料集

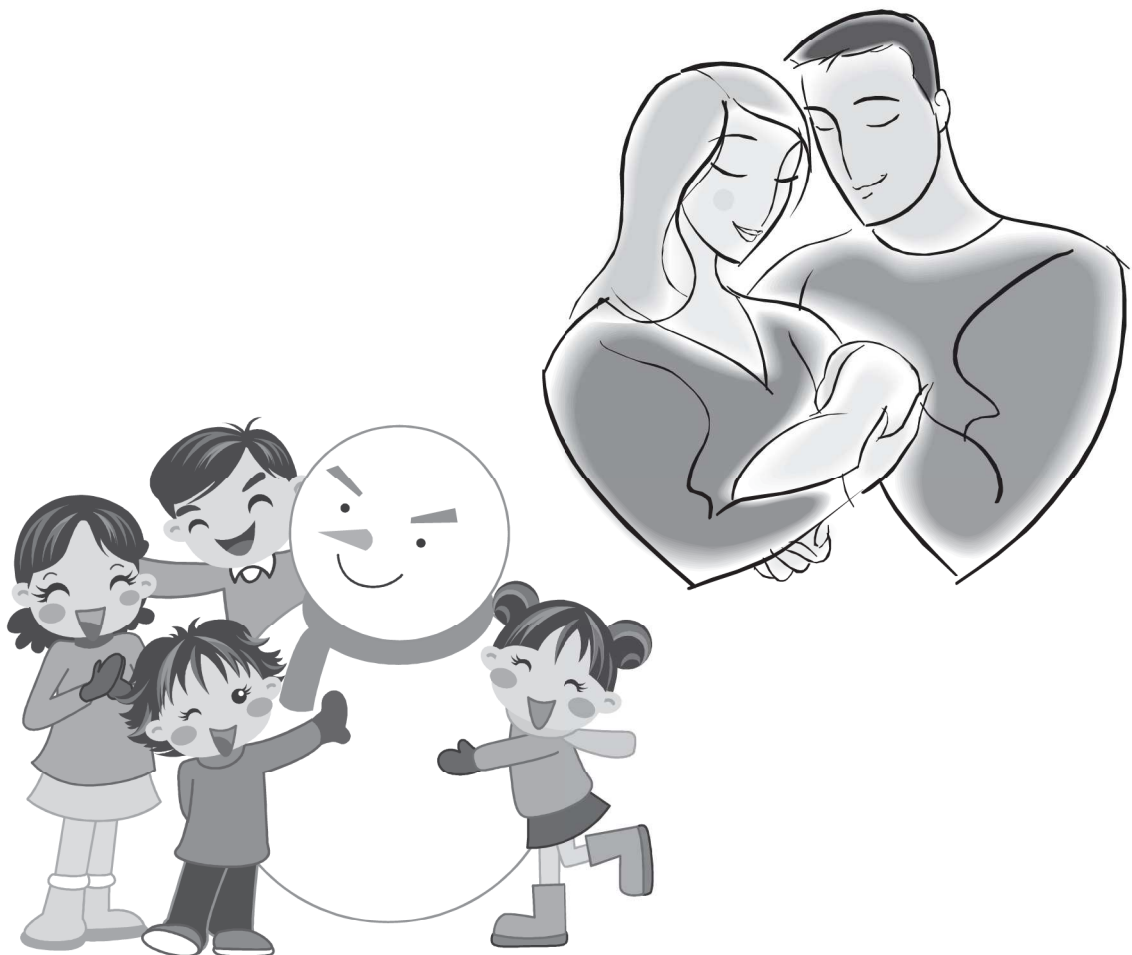
資料1 「モデルとなる家庭教育学級の講座」3カ年の実践事例の特徴比較

資料2 平成19年度教育・子育て電話相談事業のデータから

資料3 内原保育所・内原幼稚園の保護者アンケート集計結果

資料4 「内原なかよし園家庭教育学級通信」(1号～7号)

資料5 家庭教育に関する講座一覧(3年間の取り組み)



「モデルとなる家庭教育学級講座」

3 カ年の実践事例の特徴比較

		1 年次 (平成 18 年度)	2 年次 (平成 19 年度)	3 年次 (平成 20 年度)
実施地域の特性		中核都市（水戸市）	地方都市（笠間市）	町村規模（水戸市内原）
実 施 会 場		市街地小学校 (新荘小学校)	中心校の小学校（笠間小、友部小）、2 校で同時展開 笠間公民館	内原保育所・内原幼稚園 内原中央公民館
プログラム作成		原案の作成 参加者ニーズの反映	学習プログラム開発委員会 各地区での家庭教育学級委員会	
連携・協力機関		新荘小学校、同 P T A	笠間市教育委員会、笠間小学校、友部小学校、笠間・友部小学校 P T A	内原幼稚園・内原保育所、内原中央公民館、内原地区幼・小・中学校、県レクリエーション協会、水戸市国際交流センター、アクアワールド茨城県大洗水族館、日立市かみね動物園
実施回数・時間		4 回、6 時間	各 7 回、約 12 時間	7 回、19 時間
学習者	対 象	小学 1 年生の保護者	小学 1 年生の保護者	幼・保育園児等の保護者
	参加者	参加者は固定せず、毎回希望者（参加可能者）が出席		
主な学習方法		講義・講演、パネル・シンポ、グループ討議 等	講義・講演、パネル・シンポ、グループ討議、実技・実習、体験・情報交換、合同学習会 等	講義・講演、パネル・シンポ、グループ討議、実技・実習、体験・情報交換、公開講座 等
講 師 及び 助言者等	人 数	11 人	笠間小会場 12 人 友部小会場 14 人	23 人
	職種等	臨床心理士、教員、家庭教育電話相談員、保護司、警察官、アナウンサー、福祉相談員、ディーラー社長、ラグビー監督、サッカー監督 等	臨床心理士、教員、家庭教育電話相談員、保護司、幼稚園長、教育長、精神科医、歯科衛生士、接骨師、ボランティア、社会教育指導員 等	臨床心理士、教員、レク指導員、NPO 役員、保護司、薬剤師、警察官、学芸員、動物飼育専門官、外国人 等
広報・学習情報		開催案内チラシ	開催案内チラシ	開催案内チラシ 学習結果の情報提供
3 カ年の共通事項		・すべての実施日に参加者アンケートを実施 ・茨城県水戸生涯学習センターの「教育・子育て電話相談事業」の活用 ・家庭教育学級委員会（学習者代表による）の設置		

平成19年度教育・子育て電話相談事業のデータから

平成19年度教育・子育て電話相談
概要 NO.30から抜粋

I 相談の概要

(1) 相談件数 2,984件

方法	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
電話(昼)	180	206	159	166	79	145	161	148	122	126	136	129	1,757
電話(夜)	142	140	115	115	77	100	94	79	83	95	88	91	1,219
F A X	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
電子メール	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	7
合 計	323	347	274	281	156	245	256	227	205	222	225	223	2,984

○ 相談件数とは、教育・子育てに関する相談を受けた件数を示し、実際の電話件数は、4,278件である。

○ 電話(昼)の相談は、9:00～17:00まで。電話(夜)の相談は17:00～24:00まで。

(2) 相談内容

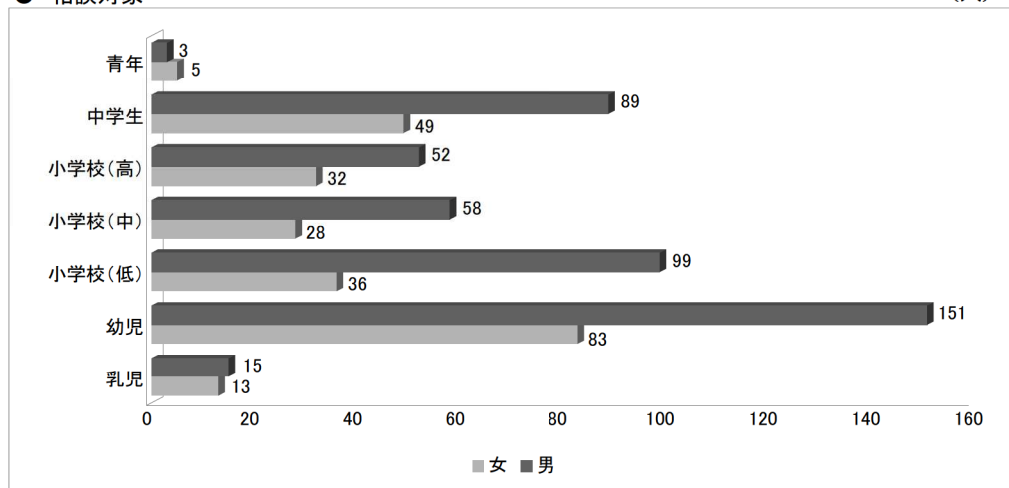
内 容	習慣・しつけ・育児	学習・進路	交友	いじめ	家族	地域	非行	不登校	学校生活	心身等の障害	健康	性	虐待	その他	合 計
電話(昼)	424	229	180	67	217	38	35	135	197	98	52	23	10	52	1,757
電話(夜)	328	152	116	51	166	21	23	60	120	94	30	28	5	25	1,219
F A X	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
電子メール	1	1	1	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	7
合 計	754	382	297	119	383	59	58	195	320	192	82	51	15	77	2,984
割 合	25.3%	12.8%	10.0%	4.0%	12.8%	2.0%	1.9%	6.5%	10.7%	6.4%	2.7%	1.7%	0.5%	2.6%	100.0%

○ 「習慣・しつけ・育児」の相談が25.3%と最も多い。

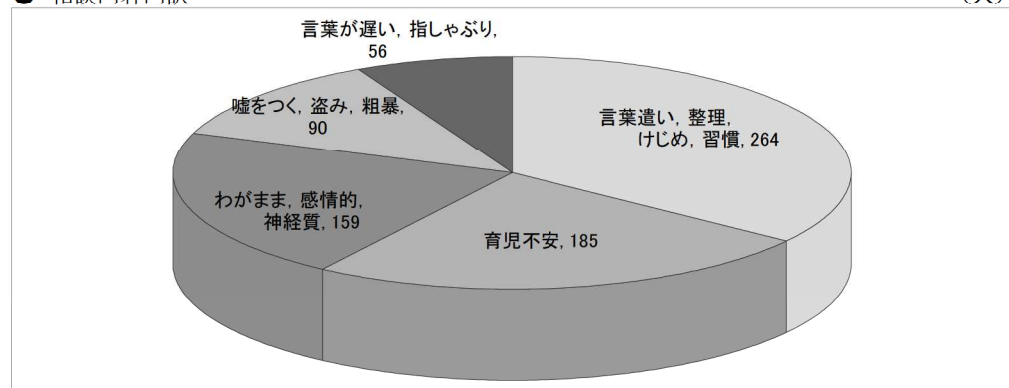
2 相談内容の傾向

「習慣・しつけ・育児についての相談」(754件)

● 相談対象



● 相談内容内訳

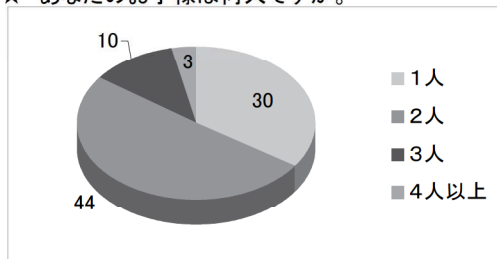


2 内原保育所・内原幼稚園の保護者アンケート集計結果

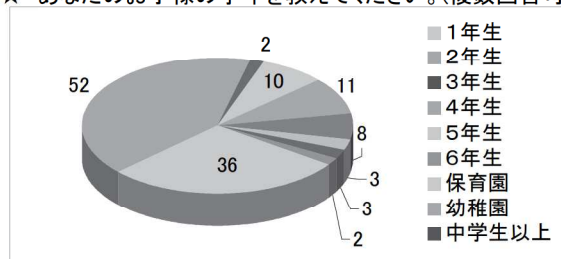
資料3

問1 あなたのお子様についてお知らせ下さい。

★ あなたのお子様は何人ですか。

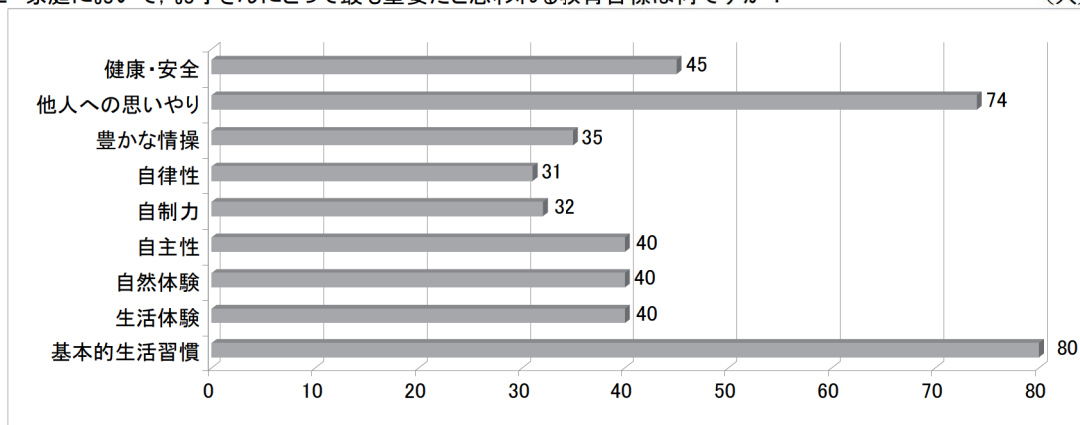


★ あなたのお子様の学年を教えてください。(複数回答可)



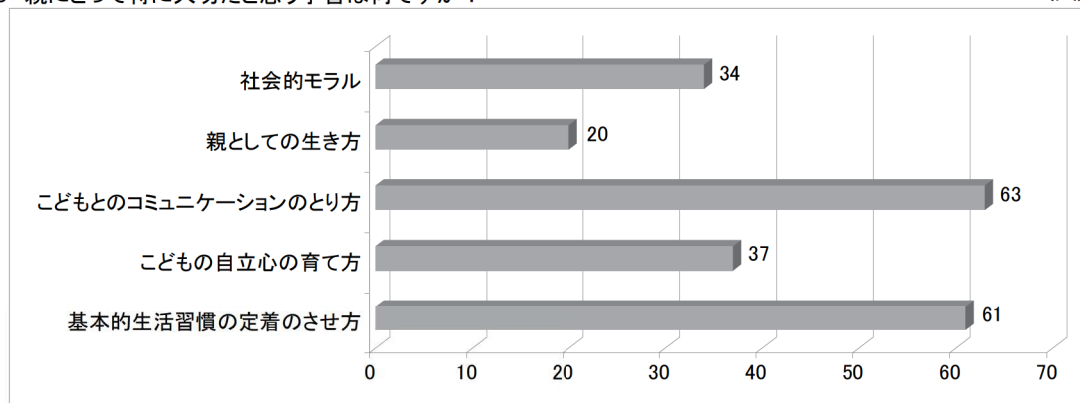
問2 家庭において、お子さんにとって最も重要だと思われる教育目標は何ですか？

(人)



問3 親にとって特に大切だと思う学習は何ですか？

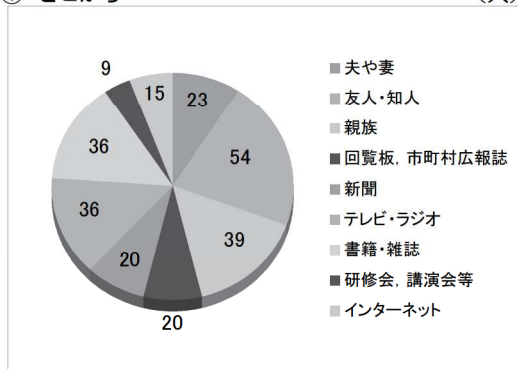
(人)



問4 家庭教育に関する情報をどこから、どのような内容を得ていますか？

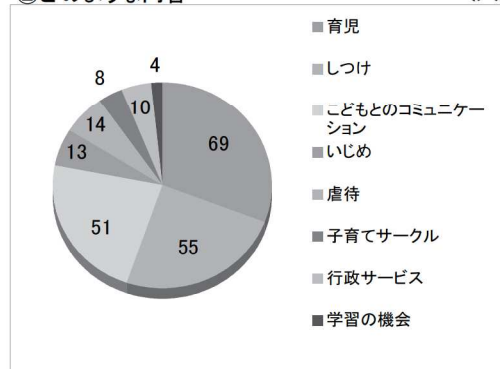
① どこから

(人)

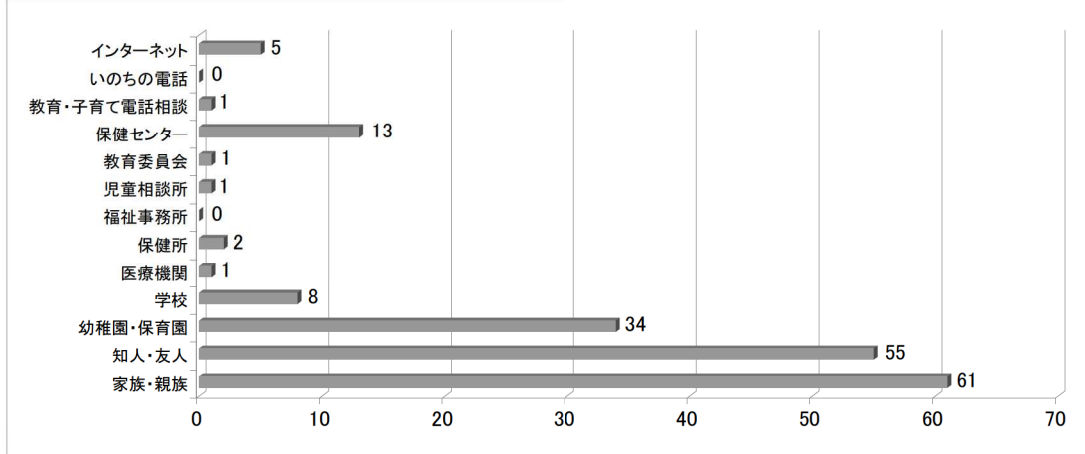


② どのような内容

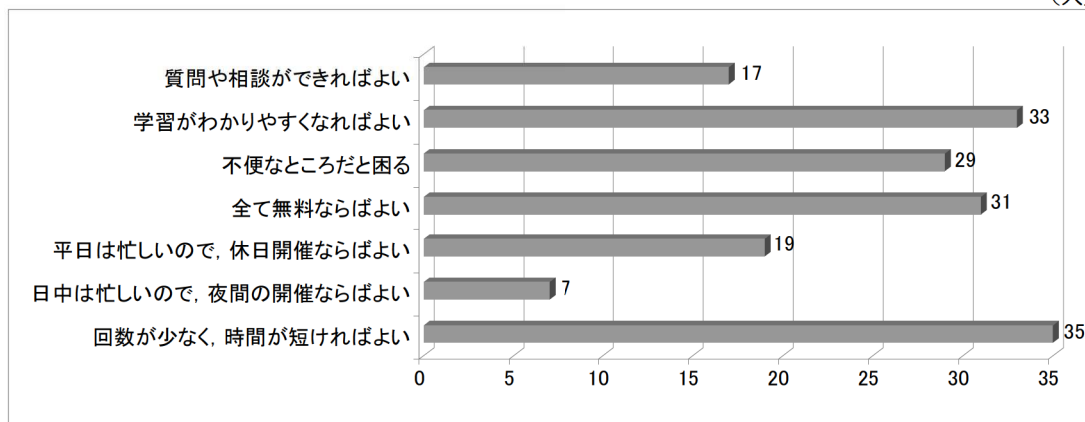
(人)



問5 あなたは家庭教育に関することをどのようなところに相談したことがありますか？ (人)



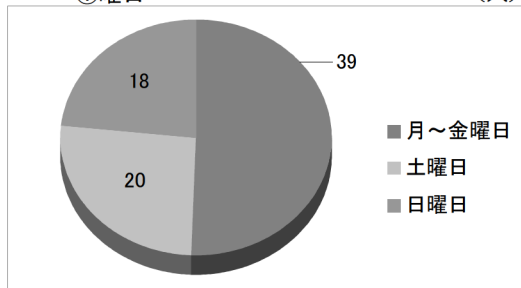
問6 家庭教育学級に関する学習が、どのようになれば参加しやすいですか？ (人)



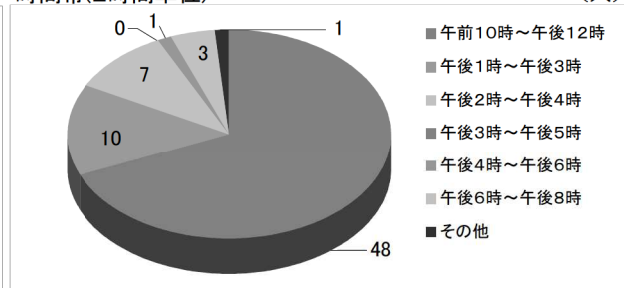
問7 家庭教育学級へ参加できる場合は？

★母親が参加できる時

①曜日

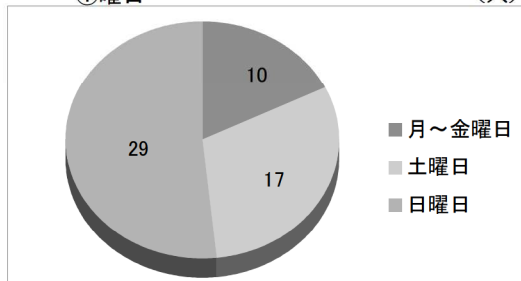


(人) 時間帯(2時間単位)

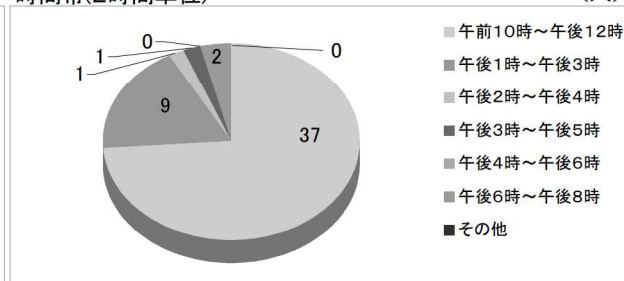


★父親等が参加できる時

①曜日



(人) 時間帯(2時間単位)



家庭教育学級講座スタート

茨城県水戸生涯学習センターでは、県指定事業「学習プログラム開発事業」において、2年前より家庭教育学級のモデルとなるプログラム開発を実施しており、実施後は、先進的な事例として県内各市町村に事業内容を紹介し、本県の家庭教育学級のさらなる振興を図ってまいりたいと存じます。

今年度は、水戸教育委員会をはじめ、先進的な幼・保一元化に取り組まれている内原保育所・幼稚園のご協力をいただきまして、7回分の講座を計画しております。

内原保育所・内原幼稚園の保護者の皆様にとって、よりよい学習情報の提供ができればと思っておりますので、たくさんの方の保護者の皆様の参加をお待ちしております。特に、保育所の保護者の方は、お仕事等で大変だとは思いますが、「内原なかよし園」の一員として、7回の講座を計画しておりますので、ご都合をつけて参加して、皆さんで学習していければと思います。

この「内原なかよし園家庭教育学級通信」は、参加できなかった方のための情報提供や次の講座のPRもかねて、7回発行する予定です。楽しみにしててください。

第1回家庭教育学級講座実施される

6月17日（火）に、内原保育所・内原幼稚園 第1回家庭教育学級講座が実施されました。平成20年度の開校式の後に、茨城大学名誉教授であり、茨城県精神保健協会の会長でもある中原弘之先生に、「生きる力は家庭教育で」と題しましてお話していただきました。



中原先生は、臨床心理士としてこれまで、家庭教育に関与してたくさんの方の事例にかかわられてきた方です。また、茨城大学や茨城キリスト教大学で、幼児期の発達心理学や家族心理学をご専門として長年研究を続けられ、家庭教育に関しまして第一人者です。

◎講義内容

- ★自分の子育て失敗経験をベースに
- ★子どもにすれば注文をしないか？
- ①「うそをつき」はオバカサン！
 - ②「反抗」する子は可愛くない！
 - ③「逆巻」する子は、競争社会で生きてゆけない子！
- ★だからといって「しつけ」は不要なの？
- ★どんな親モデルがよいのか

【講話を通して】

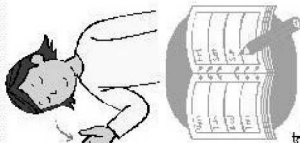
- ◎ 先生の自分の娘に対しての子育ての失敗談を話しから、その当時の自分の心、子育てに対しての葛藤から、こどもの心にしみこむ接し方について話をさせていただきました。
- ◎ こどもを叱るときには、「突き放さないで、抱きしめながら叱ることがよい」ということに思わず感動しました。

【参加者の声】・・・アンケートから一部紹介

- 今まで、子どもとどう接すべきが悩む部分も、今日の講話で接し方、声掛けによって子どもが喜ぶということが分かりました。
- 中原先生の人柄もそうですが、実践経験に基づいた話で、肩に力が入らずに聞けました。
- 私は今まで、子どもに考えさせ、自分で解決していく力を付けさせられなかったので、今回の話を聞いて、自分なりに努力していきたいと思いました。
- 事例が多く、身近で分かりやすいお話で聞きやすかったです。
- 子どものしつけは叱らなくても、子どもに考えさせることでできるといふ話があった。
- 子どもの気持ち（空想と現実）など改めて分かりました。
- 子育ての悩みがだいぶ楽しく思えるようになりました。
- 今後の子どもの成長の見守り方、接し方が非常に参考になりました。
- 中原先生の講話を聞いて、子育てを見直すことができました。共働きで一日のほとんどの時間を保育所でお世話になっている我が子ですが、任せきりにせず、家庭でのしつけを大切に、こどもの心を満たしながら、親子の時間を大切にしていきたいと思いました。
- 普段ただ怒ってしまっていることが多いが、そうではなく、子どもの気持ちになって考えあけて、接することが大切だと言ったことを覚えてもらいたいと思えました。
- お話がおもしろく、実行できそうな内容だった。

※ 参加した保護者全員から「中原先生の講話は非常にためになった」という感想をいただいたことが多かったと思えました。特に、保育所に子どもを通わせている保護者の方々からの感想（太字）に感動しました。

※ 今回は、平日開催のため幼稚園の保護者の方々がほとんどでした。お忙しいとは思いますが、保育所の保護者の方々も、これからの講座にたくさん参加していただければと思います。よろしくお願ひします。



お願ひ

今後の予定

前回、水戸生涯学習センターから、家庭教育学級の9月までの全4回分の内容を書いたお知らせ文を配付しました。それを参考によろしくお願ひします。7月、8月に行われる講座について内容をお知らせします。

第2回 家庭教育学級講座

期日 7月9日（水）
9:15～11:15
場所 内原保育所・内原幼稚園
内容 「子育てママの国際交流」
★ 外国の子育て経験者等と我が子も含め子育てについて、井戸端会議をします。
持参 外国の方への質問など

第3回 家庭教育学級講座

期日 8月30日（土）
9:00～12:30
場所 内原公民館講堂
内容 「パパと一緒に遊んじゃおう」
★ 茨城県しぐれーション協会の方と一緒に遊びます。
持参 運動のできる服装
限定 親子30組程度

☆ 詳しいことは、茨城県水戸生涯学習センター 担当 長谷川 までお問い合わせ下さい。
電話番号 029-228-1313

子育てママの国際交流！！

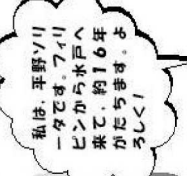
第2回家庭教育学級講座(井戸端会議)

7月9日(水)に、内原保育所・内原幼稚園 第2回家庭教育学級講座が実施されました。今回は、水戸市国際交流センターから派遣していただいた3名の外国の方となかよし園でAETをしているデレック先生による井戸端会議を行いました。

【講師の先生方の紹介】



私は渡辺ロズビタです。ドイツから水戸に来て20年かたちります。趣味は、クッピーを育てています。



私は、車野ソリ一タです。フィリピンから水戸へ来て、約16年かたちります。よろしく！



僕はデレックです。なかよし園でAETをしています。結婚1年目です。まだ子供は...！これからもうよろしく！



僕は、藤川アーロンです。水戸へ来てまだ3年目ですが、イチゴ農家をしています。食べに来てね！



【井戸端会議では...！】

4カ国から講師の先生を招き、一カ国の話し合いが20分という短い時間の中で、その国の子育て事情や育児への不安などについて、意見交換をしました。「子供のしかり万」「日本へ来ての戸惑い」「しつけの方法」などたくさんのお見聞がされた時間でした。(それぞれ国の事情を知ることができました。)

もう少し時間があつたら、もっと聞きたいことがあつたと思いますが、時間の関係上申し訳ありませんでした。



【参加者の声！...♪♪♪アンケートから一部紹介♪♪♪】

- いろいろな国の子育てについて聞けてとても勉強になりました。各国それぞれの文化の違いがとて面白く、教育に関していろいろなと参考になりました。
- いろいろな国の子育てを知ることができて、世界が広がった気がします。
- 国によって文化の違いはあると感じたが、子供に対しての愛情は変わらないですね。
- 4カ国の万々の楽しい話を聞けて大変良かったです。今の日本の裕福な生活、お金では買えない家族の在り方などを考える良い機会になりました。
- 正直言って参加することにあまり乗り気ではなかったのですが、各国の子育てや国の事情などを聞くことができたことがとても良かったです。
- 国によって様々でしたが、共通点もたくさんありうれしく思いました。
- 結構似ていることも多いと感じ面白かったです。また、良いところとして挙げられた点が昔よくあった事柄だったのがびっくりしました。今と昔では変わった点が多いですが、もう少し私たちが「昔」の子育ての良さを考えることがあっても良いと思いました。
- どの講師の方も真剣に子供を愛し、親を愛しているのだと感じました。私は、形の上で子供を愛しているとは断定して怒っていたような気がしています。これからは、怒るのではなく、愛を込めて叱りたいし、自分も成長していきたいです。

【感想】

第2回目の家庭教育学級「子育てママの国際交流」では、31名の保護者の方に参加していただきました。少しずつ参加者が増えてきていることに感謝申し上げます。なかよし園の保護者の方がたくさん参加して下さることが、私どもの願いです。

お忙しい中、時間を確保することは大変難しいことだとおは思いますが、是非皆さん一緒に勉強してみませんか？きつと「参加して良かった」と思えるはずです。

PS: ロズビタさんを国際交流センターまで送る帰りの車の中で、ロズビタさんが皆さんの学習意欲にいたって感動していました。内原地区のお母さん達は熱心に子供達のことを考えていると絶賛していました。これから機会があれば是非呼んでくださいとのことでした。(長谷川)



ちょっとお知らせ

1 元気な親子セミナー

8月30日(土)9時より、内原公民館において第3回家庭教育学級講座『パパと一緒に行こう！元気アップ親子セミナー』を開催します。詳しい内容は、お知らせにて通知しますので、今回は定員が決まっておりますので、先着順になります。申込用紙に記入の上、保育所・幼稚園へ提出下さい。

2 内原地区合同家庭教育学級

9月26日(金)9時30分から、内原公民館において、第4回家庭教育学級講座を開催します。内容は、シンポジウム等です。教育・情報・食育・非行問題の専門家による話し合いと質疑を行います。そして今回は、内原地区合同家庭教育学級としてたくさんの方に参加していただきたいので、皆さんの情報網を活用してください、お願いします。

☆ 詳しいことは、茨城県水戸生涯学習センター 担当 長谷川 までお問い合わせ下さい。
電話番号 029-228-1313

平成20年9月10日
発行元
安城県水戸生涯学習センター
第3号

内原なかよし園家庭教育学級通信 第3号

パパと一緒に遊んじゃおう！元氣アップ親子セミナー

【第3回家庭教育学級講座実施】

8月30日(土)、内原中央公民館を会場に「第3回家庭教育学級講座」を開催しました。
この講座は、安城県レクリエーション協会と連携して、「パパと一緒に遊んじゃおう」というテーマのもと、お父さんも参加し、子供と一緒に楽しく活動できる講座としました。
当日は、74名の参加者と講師の先生方で楽しく活動できました。内容については、次のとおりです。

時間	保護者向け	開	会	子供向け
9:00				
9:15	セミナー		チャレンジサザゲーム	
10:25	親子で元氣アップエクササイズ体操			
11:10	親子で「アイーダ アイダ」体操			
12:00	子育てしゃべり場		いろいろなクラフト	
12:30				

【活動の様子】



【元氣アップセミナー】



【子育てしゃべり場】

【チャレンジサザゲーム④】 【いろいろなクラフト】

＜雑感＞
「1歳から12歳までの子供達が参加しました。親子が離れて活動する場面では、涙を拭きながら、みんなと一緒に活動することができました。小さな子供の姿がとても印象的でした。親子で楽しく過ごせた一瞬でよかったと思います。」



【親子エクササイズ】

【参加者の声】…アンケートから一部紹介

※講座に参加して！

- 普段なかなか遊ぶことがないのでとても良い時間を過ごしました。(幼・母)
- とても有意義な集いであったと思います。(幼・父)
- 親子で身体を動かす貴重な機会でした。(保・父)
- 孫との接し方について親と祖父母が参考になった。食物に関して好き嫌いが多く、両親は全て食させるのに苦労しているように感じる。(幼・祖父)
- 身体を動かす体操も子供が喜んでいて簡単なので、家でもやってあげようと思った。
- 子供の成長は、家庭環境がとてども大事だと分かりました。子供を怒るのではなく叱ることが大切だと分かりました。
- どんな時でも、私にべったりの娘が今日は娘の方から離れていったのでびっくりしました。今までで初めてかも！とても楽しそうに帰っている娘の姿を見て今日は参加できて良かったと思います。
- 今後は、他の皆さんの話を聞いて、とてども参考になりました。参加して良かったです。

※参加できなかった皆さん

- 出席しては楽しかったけど、あることを分かってほしいと思います。
- 体力が大事！朝食も大事！面白かったと伝えたい。
- 最初は面倒だと思っていたけど、参加して良かったと思います。結構楽しめましたよ。
- 内容もとても充実していたので、もっと多くの人が参加してくれると良かったと思う。
- 子育てや運動とか話がとてども良かったので、関くと良いですよ。
- いろいろ参加して楽しい思い出を残したいと思います。

～ちよっどお知らせ～お願い～

内原地区
合同家庭教育学級開催
日時 9月26日(金)
9:30～12:30
会場 内原中央公民館
内容 シンボジュム
情報交換

第5回家庭教育学級講座
日時 10月22日(水)
会場 内原なかよし園
内容 後日お手紙でお知らせします。お楽しみに！

今までにこの家庭教育学級講座へ参加できなかった方で、この通信の感觸やご意見等がありましたら、是非、下記の感觸欄に記入していただき、内原なかよし園まで、ご提出下さい。

＜感觸を聞かれます＞

キ リ ト リ セ ン

(幼 ・ 保) 保護者から

内原なかよし園家庭教育学級通達

平成20年10月 8日
発行元
茨城県水戸生涯学習センター

第4号

一緒に考えてみませんか 子どもの将来のために！

内原地区合同家庭教育学級及び第4回家庭教育学級講座実施

9月26日（金）、内原中央公民館を会場に、内原地区合同家庭教育学級を開催しました。これは、内原地区幼・小・中学校の家庭教育学級が合同で実施した講座です。

今回の内容は、水戸女子高等学校長鈴木康之先生をコーディネーターとして実施したシンポジウムと講師の先生方と一緒に語り合う井戸端会議でした。

当日は、たくさんの方に参加していただき、有意義な研修を行うことができました。小さな子どもを連れて参加して下さった保護者の方もいたことが何よりでした。

詳しい内容は、下記のとおりです。

第1部 シンポジウム(9:30~11:30)



<コーディネーター> 鈴木 康之 先生
水戸女子高等学校長
<シンポジスト>
茨城県女性ネットワーク委員長
矢口 みどり 先生
高野 昭 先生
保護司

「一緒に考えてみませんか 子ども達の将来のために」というテーマのもと、学校、家庭、地域がそれぞれ子ども達のために、今できることを真剣に話し合っていました。講師の先生方に感謝しています。

第2部 井戸端会議(11:30~12:10)



<井戸端会議の様子>

これまでの家庭教育学級講座では、それぞれのテーマのもと、気軽に語り合う井戸端会議を毎回行っておりま

す。今回は、自分がシンポジウムで聞いたことや日頃の悩みについて、車座になり直接講師の先生方と話し合

る時間としました。

<話し合った内容>

A グループ：教育全般

B グループ：食育、情報メディア等

C グループ：地域の取り組み、こどもの関わり等

たくさんの方の意見が聞けたことが良かったと言う声が多く聞かれました。やっぱり話し合いをすることは良いものだとつくづく感じた一時でした。皆さん是非も参加し

てみてください。

※講座に参加して！

【参加者の声】…(内原なかよし園保護者)

〇いろいろな立場の先生から、貴重な考えを聞くことができて良かったです。子どもと素晴らしい内容でした。子どもとメディアに興味がありました。子どもとのコミュニケーション、会話の大切さを改めて感じることができました。〇今回初めて参加ですが、すごく参考になりました。子育てをしながら、子育てについて真剣に考えたことがなかったです。今後精神的に成長する子どもに対して、参考になることが多く、参加して良かったです。(保育所 母)

〇保護者の方の熱意が伝わりました。続けることが大切ですね。〇自分の家事をこなすために、子どもをDVD 保存にさせてしまっていることに気付かされました。将来、ネットや携帯依存にさせないためにも気をつけたいと思います。〇担任の子どもを取り巻く様々な問題に感情的になっていた今日この頃でしたが、解決の糸口を見つけた感じがしました。〇話を聞けてとても良かったです。子育ての悩みについても「そのままでもいいじゃないか。続けられればいい」と言っていたけど、とてもハッとさせられました。

※参加で分かった皆さん

〇育児について少し発見ができたと思います。自分だけでは悩むことも、皆さんと話して少し楽になりました。(保育所 母)
〇絶対一度参加していただきたい。
〇初めて参加しましたが、とても楽しく、良い話が聞けるので良いと思います。
〇子育てで、生活全てにおいて、ささいな悩みでも解決できる場だと思いました。
〇楽しい。面白い。すごく参考になる話が聞けます。是非参加してみたいかがあります！

※なかよし園保護者以外の参加者の声！

〇いろいろな立場の先生のお話の中で子育てのヒントを受け取ることができました。(妻 幼稚園)
〇地域で子ども達を守るといふ意識を持つことが大切！まず挨拶から！(小学校 母)
〇子供を大事に思うなら、このような会に参加してほしいと思います。(小学校 母)
〇子どもとのコミュニケーションがいかにかに大事か改めて感じました。これから頑張って子育てしていきたいと思いました。(小学校 母)
〇子育てとは難しいと思います。子ども達の人生は親次第で変わると思いました。子どもとのコミュニケーションを取ることで子どもも大切に思いました。(小学校 母)

~~~~~ちよっどお知らせ・お願い~~~~~

#### 第5回家庭教育学級講座

日時 10月22日(水)  
会場 内原なかよし園  
内容 「みんながこどもの健康と安全を考える」(お便り参照)



#### 第6回家庭教育学級講座

日時 11月19日(水)  
会場 内原なかよし園  
内容 「動物からの贈り物」  
期待して待ってね！

#### ※皆さんの声を聞かせてください！

今までにこの家庭教育学級講座へ参加できなかった方で、講座やこの通達の感想やご意見等がありましたら、是非、下記の感想欄に記入していただき、内原なかよし園まで、ご提出下さい。

<感想欄へ>

キ リ ト リ セ ン

( 幼 ・ 保 ) 保護者から



# 内原なみよし園家庭教育学級通達

平成20年11月7日  
発行元 茨城県水戸生涯学習センター  
第5号

## 地域で子どもたちの健康と安全を考える！

### 第5回家庭教育学級講座実施する！

10月22日（水）第5回家庭教育学級講座を実施しました。  
今回の講座は、水戸生涯学習センター主催ではなく、内原なみよし園の井上家庭教育学級委員会を中心に「地域で子どもたちの健康と安全を考える」というテーマのもと、2名の講師の先生をお招きし、講義形式の講座で行いました。  
当日は、葉刺師の鶴岡先生の話に熱心に耳を傾け、また、水戸警察署生活安全課の桑島さんの話に引き込まれた内容で、とても有意義な研修を行うことができました。  
詳しい内容は、下記のとおりです。

#### 第1部 葉刺師 鶴岡先生の講義(9:15~10:10)

たくさんの方の資料と先生の豊富な知識から、5つの柱立てて話をさせていただきました。  
その項目は以下の内容です。  
1. 母乳の美味  
2. 睡眠の意味  
3. 食べること  
4. 呼吸の大切さ  
5. 健康情報の害



先生は、特に母乳の中のホルモンのことや、腸の温度の低下によって起こる病気、また、身近なことに気を付けるだけで病気の予防ができてくることなど、たくさん話をしてくださりました。時間があっという間に過ぎました。

#### 第2部 水戸警察署 桑島先生の講義(10:20~11:10)



水戸警察署生活安全課の桑島先生には、振り込み詐欺の手口や最近の防犯事情を詳しく、そして分かりやすく説明してくれました。特に、振り込み詐欺では、銀行のＡＴＭで携帯電話を使っているケーブスはほとんど振り込み詐欺だということでした。

また、最近の強盗事件は、高速道路のインター付近の地域で多発しているということです。(犯罪を起した後、高速道路で逃げ回っているそうです。水戸市では、双葉台やけやき台あたりが事件多発地帯です。)

そして、子ども達が事件に巻き込まれるケースを見ると、目撃者から隠れていない場所が一件事件が起こる所だそうです。日頃から、防犯意識が大事だということです。(子ども達を守るためにも、防犯マップが必要だということです。)

講義後は、相手から身を守るためには、相手の戸へ力を加え、一気に引き離し逃げるのが一番だということを知りました。

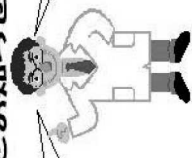
### ※ 講義座に参加して！ (参加者の声) (内原なみよし園保護者)

＜葉刺師 鶴岡先生の話を聞いて＞

- 睡眠の大切さや腸の冷えなど、とても参考になるお話でした。子どもにもアイスなど冷たいものをよくあてていたのだからこれは気をつけたいと思います。
- 子どもがアトピーで悩んでいましたが、腸の中の温度でアトピーが出るのが分かり、冷たいアイスや飲み物が身体に良くない分、早急冷感庫の温度とが調ってなるべく暖かいものを食べさせてアトピーが完治すればよいかなと思いました。
- 病気との付き合い方を考えさせられた。食事の大切さ、生活のリズムは生きることにとって本当に基本のことだと分かりました。
- 母乳の温度の話はためになりましたが、もう手遅れだと思いました。睡眠と食事の話は貴重で、腸の温度の話をもっと聞きたいと思いました。
- ＜水戸警察署 桑島先生の話を聞いて＞
- 護身術は勉強になりました。帰ったら子どもとやってみたいと思いました。
- 家の周りの危険なところを子どもと目の届く範囲で探して、子どもに注意する目を持たせたいと思います。
- 自分の身は自分で守る。大事ですね。
- 警察の方の話が、自分のエピソードも交えて話だったので楽しく聞けました。
- 護身術については、手の届かない万などを教えてもらったので、家で子どもと練習したいです。防犯についてはやはり、子どもを毎日の居るくところへ置くことが一番安心ですね。

#### 第6回家庭教育学級講座

日時 11月19日(水)  
会場 内原なみよし園  
内容 「動物からの贈り物」  
楽しい内容ですよ！  
期待して待ってね！



#### 第7回家庭教育学級講座

日時 1月23日予定  
会場 内原なみよし園  
内容 ・保育参観  
・講演(家族の絆)  
・閉会式

### ※ 皆さんの声を聞かせてください！

今回は事前に資料を配付しました。いかがでしたか？また、今までにこの家庭教育学級講座へ参加できなかった方で、講座やこの通信の感想やご意見等がありましたら、是非、下記の感想欄に記入していただき、内原なみよし園まで、ご提出下さい。よろしくお願いたします。

＜ 感想欄へお送りください ＞

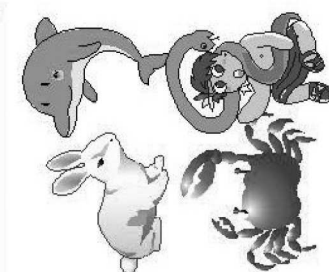
キ リ ト リ セ ン

( 幼 ・ 保 ) 保護者から



# 大好評だった！「動物からの贈り物」講座

## 第6回家庭教育学級講座実施



11月19日（水）に行われた第6回家庭教育学級講座は、「動物からの贈り物」というテーマのもと、常盤大学コミュニティ振興学部准教授 中原史生先生、アクアワールド茨城県大洗水族館、日立市かみね動物園の御協力で実施できた講座です。今回の講座では、保護者には動物の子育て、子どもたちには命の大切さを学習するためのものでした。そこで子どもたちにも動物とふれあってもらおう移動教室をこの家庭教育学級に取入れました。

開催当日は、駐車場に水族館の車が到着しただけで、子どもたちの熱狂ぶりは相当なものでした。保護者の方にもたくさん参加して下さったことに感謝しています。

内容は以下の通りです。

### （第1回）講義（9:10～10:10）

- ◎テーマ 「動物からの贈り物」
- ◎講師 常盤大学コミュニティ振興学部准教授 中原 史生 先生
- ◎内容 1. 動物の子育てについて 2. 動物と子どもの関係

※ 中原先生の講義では、専門のイルカとクジラの生體ばかりではなく、陸上動物チンパンジーについても話していただきました。ほ乳類では親子の基本は、母と子です。そして、子育てで上手の類になるためには学習（経験による比較的永続的な行動）が必要だということです。また、チンパンジーの子育ては「教えない教育」、人間の子育ては「教える教育」という内容が印象的でした。先生の楽しい話の中に映像を交えての講義で時間のたつのを忘れたほどです。

### （第2回）移動教室（10:10～11:45）

#### 1. アクアワールド茨城県大洗水族館 ～内原なほよし園のホールから水族館に早変わり！～

大洗水族館から3名の職員の方に来ていただいた。内原なほよし園のホールに、海の生物が入っているフーンスを3つ設けてくれました。まず、親子で海の生物についてのレクチャーを受けました。カニ、ヒトデ、ウナギなどの入っている水槽で、直接ふれあう体験をしました。子どもたちはもちろん参加しました。はじめは、この生き物に触って、感動していました。はじめる、こわごわ覗き込んでいた子どもたちも、次第に慣れ、全員が楽しく活動できたことに満足です。



## Z. 日立市かみね動物園

### ～内原なほよし園の運動場が動物園に早変わり！～

日立市かみね動物園から2名の職員の方に来ていただき、なほよし園の運動場が小動物園になりました。ウサギ、モルモット、ハビを持ってきていただきました。職員の方から、命の大切さを話していただき、美蘭に動物を抱いたり、心臓の音を聞いたのりしなから学習ができました。

子どもたちは、動物を大切に抱き「暖かいね」「柔かいね」などと笑顔で話しながら楽しそうに抱き合っていました。最後に職員の方にハビを見せてもらった際には、保護者の方は後ずさりしましたが、子どもたちの中には、保護者より先に抱き合っていました。

※ 午前中の活動でしたが、保護者も子どもたちも、動物たちと五感を使ってふれあうことができ、笑顔いっぱいだったようです。



### 「参加者の声」…（内原なほよし園保護者）

- 自分の子育てと動物の子育ての違いはたくさんあるけど、共通点もたくさんあった。『本能で子育てでできない』は印象的だったし、肩の力が降りた気がする。
- 母親と子どもはいつも一緒にいるなど動物も人間と同じような子育てをしていることが分かった。
- 久しぶりに大学の講義を聴いているようで勉強になりました。『動物好きには悪い人はいない』という言葉が頭をよぎりました。
- 初めて参加しましたが、とても自分に反響するところがあると思いました。（保育所母）
- 子どもたちと一緒に活動できて楽しかったです。（短大生）
- 子どもたちは親のまねをして学習していく基礎となる。うなずく、ほほえむ、見守るが大切なことが分かりました。
- 人間の子育ても動物の子育ても同じ部分があり共感できました。＜子育ては学習＞私も日々子育ての学習です。
- 動物と人は子育てで同じ所があるという発見と動物から教えられるところもあり、今後の子育てに参考にになりました。
- 子どもと一緒に動物とふれあうことができ、命や自然について学ぶことができました。子どもたちの笑顔がとても嬉しかったです。

### ※参加できた皆さんへ

- 事情により参加できない方もいると思いますが、自分のため、子どものためと悪い、短い時間でも是非参加してみてください。
- 参加すればたくさんの方が学べるので、積極的に参加した方がよいと思います。
- 動物でも人間でも親子の絆はあります。（深さの違いはありますが）自分を置き換えて考えることができそうです。子育ては学習だといっていると思いますが、人生の学習の一部だし、それを講師の先生が分かりやすく教えてくれました。
- とても楽しかったです。皆さんも是非！

### ※お知らせ※

前回は第7回の家庭教育学級講座の実施日を1月23日でお知らせしましたが、1月29日（木）に変更になりました。ご都合をつけて参加してください。



### ※皆さんの声を本当に聞かせてください！

本年度の家庭教育学級もあと1回となりました。今までにこの家庭教育学級講座へ参加できなかった方で、講座やこの通信の感想やご意見等がありましたら、是非、下記の感想欄に記入していただき、内原なほよし園まで、ご提出下さい。

＜感想・意見欄＞ キリトリせん

（ 幼 ・ 保 ）保護者から



平成21年 2月 5日  
発行元  
茨城県水戸生涯学習センター  
第7号

# 内原なかよし園家庭教育学級通達

## 家庭教育学級講座 最終回！「いま大切にしたいことは」

### 第7回家庭教育学級講座実施

1月29日(木)に行われた第7回家庭教育学級講座は、「いま大切にしたいことは」というテーマのもと、筑波大学コミュニケーション学部教授 坂本先生の御協力で開催された講座です。今年度の家庭教育学級の最終回となります。当日は、風邪やインフルエンザ等の心配もありましたが、約70名近くの保護者の戸の参加となりました。(本当にありがとうございました。)

今回の講座は、保育参観並びに講義、附設式といった流れで行われました。講義では、今回「モデルとなる家庭教育学級講座」の企画者で御指導いただいた坂本先生に最終回の講義をお願いしました。いかがだったでしょうか。

### 第1部 保育参観 (9:00～10:00)



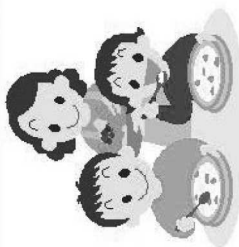
それぞれの教室で、可愛い園児が先生とともに、楽しく元気に活動している姿がとても素晴らしいと感じました。

保護者の方々が自分のお子さんを捜し、ほほえみかけている姿も印象的でした。それらの教室で、その子どもたちも楽しそうに活動している先生方に感謝しました。そして、それを温かく見守っている保護者の戸の優しい姿は、この「内原なかよし園」の素晴らしい教育のたまものだと思います。

### 第2部 講義 (10:00～11:20)

- 講義テーマ 「いま大切にしたいことは」
- 講義内容
- 1 娘になった子、鬼になる親
  - 2 なぜお嬢ちゃんには親に食べられただか
  - 3 少子高齢化は子育て問題
  - 4 子どもたちに見抜かれている親、大人
  - 5 「100番目のサル」が語る

坂本先生からは、家庭教育の重要性や家族と、本当に大切にしたいこととは何かを、考えさせていただいた講義だったと思います。参加したたくさんの方々の紹介していただき、参加した保護者の戸からのたくさんの感想をいただきました。



### 参加者の声

- 〇初めて講座を聞かせていただいた感想は、「自分の子育てに対する不安な部分も講座を通じて解消になりました。これから自分の子育てに活かすことができそうです。子どもたちも喜ぶことや子ども以上に学ばなければいけないことがたくさんあるのだと思います。」
- 〇家族の絆、家族のやりとりなどとても勉強になりました。
- 〇普段聞けない話で勉強になりました。子どもも持っている素晴らしい「力」を発見できるよ。
- 〇イベント、家族の団圓はよいものだと思います。昨年のクリスマスに、おしいちゃんやサタクロースになってプレゼントを渡したのと同じように、来年も実施予定！
- 〇今回お話を聞きました。家族の絆、これからの事、親として、妻として、妻として楽しく生きて行かなくてはならないです。
- 〇随分点のお話を聞きました。次回は臨界期についても聞きたいなと思います。
- 〇子どもと向き合おうとすることが一番大事だと改めて教わりました。分かっているけどできていないことを反省しました。参加できて良かったです。
- 〇主人にも今日の話を子どもたちにも伝えてほしいなと思います。

### ※参加できなかった皆さん

- 〇お話しを聞いて家庭教育学級に参加したいのが今回初めてでしたが、参加していろいろ学べることもありました。時間を取って参加するのでも大事だと思います。
- 〇参加になるお話をたくさん聞いたので是非参加してください。
- 〇できれば父親に率先して聞いてもらいたかった。夫婦で子育ての方向性を見つめ直せる機会です。

- 〇参加することで、いろいろな情報が入ってくるので参加してほしいです。
- 〇子育ては勉強、親も勉強が必要ですね。
- 〇子育てのヒントが毎回あるのですね。是非参加してほしいと思います。

### ※今年度 家庭教育学級全体を通しての意見・感想

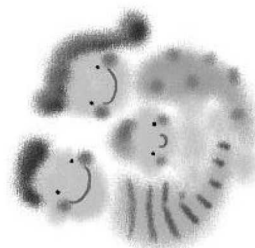
- 〇引く感ではなかったですが、このような講座を身近に開催する内原は素晴らしいと思います。
- 〇仕事をしながらの参加は難しいですが、参加するとともに楽しめる内容でためになります。除の万本当にありがたうございました。勉強になることが多く、また楽しみにしています。
- 〇たかさんの講義などに参加させていただきました。仕事をしていても時間を取って参加できて良かったと思います。
- 〇あまり参加できず残念でした。今回参加してみても大変勉強になります。
- 〇都合により2回しか参加できませんでした。興味あるテーマの講座がいくつかあり、参加できなかったのが残念でした。
- 〇保育園に通わせ、働いている親にとっては、なかなか参加できませんが、土日に行う会を開催してほしい。考えていただけたら大変うれしいです。
- 〇子育ては子どもと一緒に学ばなければならぬ家庭教育学級も魅力的です。
- 〇自分だけで子育てについて学ぶというのは大変だし、分からないうちから出てくると思うので、同じ年代の子どもがいる親同士が一緒にいろいろな勉強できる場を設けてほしい。
- 〇来年度も同じような子育てのヒントを下さい。
- 〇子供も含めた楽しい企画はないでしょうか？
- 〇楽しく分かりやすい講義をお願いします。
- 〇リラックスできるものをお願いします。
- 〇土日などにも行い、仕事があっても参加できる会の日程。
- 〇是非「いじめ問題について」取り上げてほしいです。
- 〇今年度同様の子供と親の関わり方を重視していただきたい。
- 〇今後また子どもと親の関わり方が変わればと思います。

### ※来年度 何を期待しますか？

- 〇子どもたちと一緒に学ばなければならぬ家庭教育学級も魅力的です。
- 〇自分だけで子育てについて学ぶというのは大変だし、分からないうちから出てくると思うので、同じ年代の子どもがいる親同士が一緒にいろいろな勉強できる場を設けてほしい。
- 〇来年度も同じような子育てのヒントを下さい。
- 〇子供も含めた楽しい企画はないでしょうか？
- 〇楽しく分かりやすい講義をお願いします。
- 〇リラックスできるものをお願いします。
- 〇土日などにも行い、仕事があっても参加できる会の日程。
- 〇是非「いじめ問題について」取り上げてほしいです。
- 〇今年度同様の子供と親の関わり方を重視していただきたい。
- 〇今後また子どもと親の関わり方が変わればと思います。

### ★感謝★

この「なにかよし園家庭教育学級講座」は、いかにあったのでしょうか？この講座は、講座の様子等を参加できなかった保護者の戸へお知らせしたいと思いついたのです。参加になったのでしょうか？この通信作成や家庭教育学級講座にあたり、私にとってもやりのある仕事にしたいのだ、なにかよし園の皆様方に感謝しています。今後とも内原なかよし園の家庭教育学級が素晴らしい活動になることを祈っております。(長谷川)



3年間の学習プログラム開発事業並びに家庭教育推進事業等で、様々な講座を実施してきました。その実施してきた内容を下記のとおり分類して紹介します。それぞれの機関で参考にしていただければと思います。※「実践事例集」はP5のアドレスからダウンロードできます。

## 【講義・講演会形式】

|    | 講座テーマ                        | 講師分野      | 実施年度             |
|----|------------------------------|-----------|------------------|
| 1  | アンバランスが正常<br>～思春期の子とどう向き合うか～ | 大学教授      | 平成18年度           |
| 2  | 社会の宝としての子育て                  | 人権に関する専門家 | 平成18年度<br>平成19年度 |
| 3  | 思いやりの心を育てるために                | 臨床心理士     | 平成19年度           |
| 4  | 振り返ってみませんか、家庭の在り方を           | 教育委員会教育長  | 平成19年度           |
| 5  | 地球のステージ                      | NPO法人     | 平成19年度           |
| 6  | 子どもたちの心と身体                   | 社会教育指導員   | 平成19年度           |
| 7  | 生きる力は家庭教育で                   | 大学教授      | 平成20年度           |
| 8  | みんなで子どもの健康と安全を考える            | 薬剤師、警察官   | 平成20年度           |
| 9  | 動物からの贈り物                     | 大学教授      | 平成20年度           |
| 10 | 今大切にしたいこと                    | 大学教授      | 平成20年度           |

## 【シンポジウム形式】

|   | 講座テーマ                               | 講師分野                            | 実施年度   |
|---|-------------------------------------|---------------------------------|--------|
| 1 | 問題行動の背景と要因<br>～どの子にも、どの家庭にもその可能性が～  | 学校長、茨城県警察本部少年課、県福祉相談センター、電話相談員等 | 平成18年度 |
| 2 | 夢を追いかけて<br>～スポーツを通しての子育て論～          | アナウンサー、元プロスポーツ選手、会社役員等          | 平成18年度 |
| 3 | 子どもの成長に欠かせないものとは<br>～学校・家庭・地域社会の役割～ | 学校長、少年院職員、電話相談員等                | 平成19年度 |
| 4 | 子どもの成長、その喜びと悩み                      | 学校長、園長、臨床心理士、電話相談員等             | 平成19年度 |
| 5 | 一緒に考えてみませんか！子ども達の将来のために             | 学校長、女性ネットワーク委員長、保護司等            | 平成20年度 |
| 6 | みんなで考える家庭の力、みんなで考える地域の力             | 学校長、少年院職員、電話相談員等                | 平成20年度 |
| 7 | 未来を担う子どもたちのために<br>～今、私たち大人ができることは～  | 学校長、NPO法人理事、心理療法士など             | 平成20年度 |



### 【体験活動形式】

|   | 講座テーマ                    | 講師分野                | 実施年度   |
|---|--------------------------|---------------------|--------|
| 1 | 親子歯みがき教室                 | 県歯科衛生士会             | 平成19年度 |
| 2 | 親子給食                     | 栄養士                 | 平成19年度 |
| 3 | 三世代・親子ふれあい昔遊び            | 祖父母・保護者ボランティア       | 平成19年度 |
| 4 | 親子でストレッチ体操を楽しもう          | インストラクター            | 平成19年度 |
| 5 | パパと一緒に遊んじゃおう 元気アップ親子セミナー | 県レクリエーション協会         | 平成20年度 |
| 6 | みんなで子どもの健康と安全を考える(護身術体験) | 警察官                 | 平成20年度 |
| 7 | 動物からの贈り物(移動水族館) ※注1      | アクアワールド茨城県<br>大洗水族館 | 平成20年度 |
| 8 | 動物からの贈り物(移動動物園) ※注2      | 日立かみね動物園            | 平成20年度 |

注1: 移動水族館の依頼については、小学校以上が対象となる。

注2: 小動物輸送のため近くの学校等が対象となる。

### 【井戸端会議(小グループ討議)形式】

|   | 講座テーマ                       | 講師分野             | 実施年度   |
|---|-----------------------------|------------------|--------|
| 1 | 子育てのための井戸端会議(子育て・しつけについて)   | 家庭教育関係相談員        | 平成19年度 |
| 2 | 子育てのための井戸端会議(思いやりの心を育てるために) | 家庭教育関係相談員        | 平成19年度 |
| 3 | 子育てのための井戸端会議(健康・安全等について)    | 家庭教育関係相談員        | 平成19年度 |
| 4 | 子育てママの国際交流                  | 国際交流センター連携<br>講師 | 平成20年度 |
| 5 | 元気アップ親子セミナー(子育てしゃべり場)       | 県レクリエーション協会      | 平成20年度 |
| 6 | 一緒に考えてみませんか！教育全般に関して        | 学校関係職員           | 平成20年度 |
| 7 | 一緒に考えてみませんか！情報メディア・食育に関して   | 女性ネットワーク委員会      | 平成20年度 |
| 8 | 一緒に考えてみませんか！地域の取り組みに関して     | 保護司              | 平成20年度 |

### 【講師紹介について】

※ 家庭教育に関する講師の紹介を希望する場合、各生涯学習センターまでご相談ください。

|                                   |  |                                   |
|-----------------------------------|--|-----------------------------------|
| <div>お問い合わせ</div>                 |  | 茨城県鹿行生涯学習センター<br>TEL 0299-73-2300 |
| 茨城県水戸生涯学習センター<br>TEL 029-228-1717 |  | 茨城県県南生涯学習センター<br>TEL 029-826-1722 |
| 茨城県県北生涯学習センター<br>TEL 0294-39-1520 |  | 茨城県県西生涯学習センター<br>TEL 0296-24-1389 |

平成20年度 学習プログラム開発事業  
現代的な課題に関する学習機会の提供について(3年次)  
「モデルとなる家庭教育学級講座」実践事例集

平成21年3月発行

編集・発行 財団法人 茨城県教育財団  
茨城県水戸生涯学習センター  
〒310-0054  
茨城県水戸市愛宕町4-1  
TEL 029-228-1313  
FAX 029-228-1633  
<http://www.mito.gakusyu.ibk.ed.jp/>